大正參年二月一日發行 大正三年一月二十八日印刷納本
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）

第拾壹巻
第貳號

要目

女子青年界第十一巻第二號

目次

YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume XIII February, 1914 Number 2



本館の技巧は天下既に定評あり。夜の宴會、
集會等人物撮影は得意とする所に候

寫眞

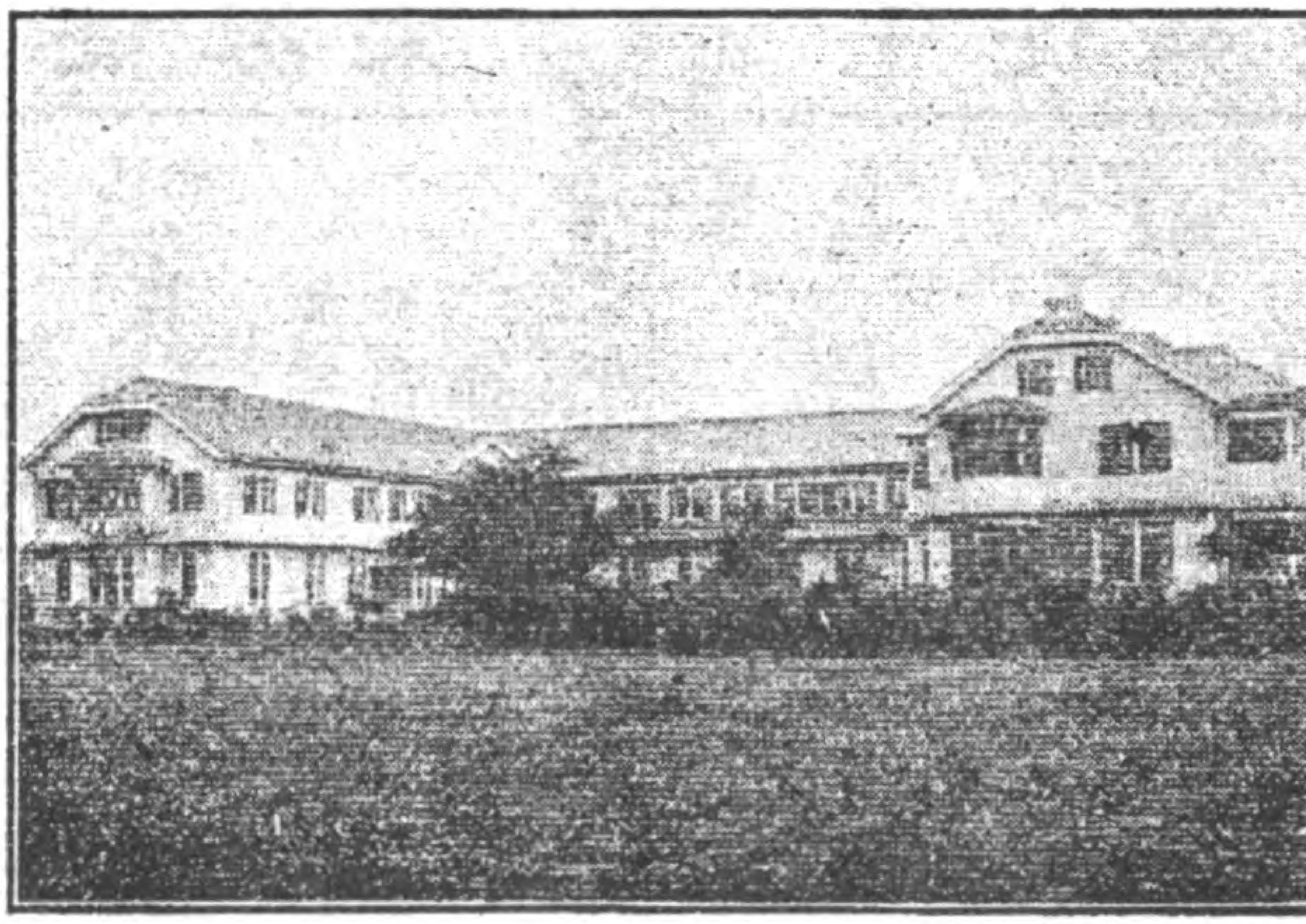
横濱市中村町一六九二

深澤寫眞館

館主 深澤次郎

毎年女子青年會夏期修養會を始め
諸學校諸集會の御用命を承り居候

隨時出張撮影仕候



普通學部（修業五ヶ年高等女學校程度）

家政學部（修業三ヶ年新校舍計畫中）

兩部共尋常小學卒業者は無試驗にて一年へ入學許可

文部大臣指定

私立

女子聖學院

東京府下
瀧野川中里
山手線駒込
驛ヨリ約三丁

生徒募集

高等家政學部（修業一ヶ年入學資格高女卒業者）

音樂裁縫利洋割烹專修隨時入學許可

家庭的寄宿舍の設あり

大正三年四月新學期開始

本科

修業三ヶ年

卒業生ハ文部省中等教員無試驗檢定ヲ受クル特典ヲ有ス

豫科

修業一ヶ年

實修科

修業二ヶ年

高等女學校卒業又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニ實際的ノ英語ト實際生活ニ必要ナル事項トヲ授クル爲ニ設ケシモノニシテ數ケ年間專門的ニ修業ナシ得ザル者ニハ最良ノ科ナリ

東京市麹町區五番町十六番地

私立 女子英學塾

米國齒科醫 山村楳次郎

治療時間 自午前九時 至午後五時

東京市京橋區山下町十八番地

電話 新橋 二千二百八十四番

會説

七里靴

河井道子

西洋の古いお伽話に『七里靴』といふのがありまして、此靴を穿くと一歩跨げば七里行ける。如何に足早の鬼でも、風の神でも、之を穿いた者には到底追付く事は出來ぬ。所謂長足の進歩とは此事を申すので御座いませう。

世界中で迅風の速力の一番强いのはメキシコ灣と臺灣基隆港附近だと申します。其風は一時間に百五十里も吹くとの事ですけれども、此風の神でさへも七里靴の速力には及びません。然し此靴よりも早いものは我々の思想で御座いまして、之は電光に比してある通り、一秒にして世界を一週するも易く、地より天外に飛ぶ事も出來ます。斯く我等の思想は迅速とも我等の性格の發達に至りましては到底七里靴や電氣的飛行機で御座いません。矢張り家康公の敎訓通り『牛の歩みのよし遲くとも』撓ます倦まず行くのが、眞個の進歩發展の軌道で、此軌道を脱して一足飛びに天に昇り、七里靴で成効の城に達し度いと思ふは愚の至りで御座います。惡人が如何に前非

を悔ひましたとて一躍にして聖人に成られませうか。年來不規律、不眞面目の者が、或は不親切の人が、大晦日の晩に、來年からこそはと如何に堅き決心をしたとて、元旦早々より掌を翻すが如く、規則正しく眞面目に親切な者に全然變化する事は不可能の事であります。二三十年間も、狡猾、不正を成効の秘訣とせし奸商人が、一朝にして正直屋の主人とはなれず。虚榮、虚構を生命とせし者が、如何て一瞬にして献身犧牲の化身となられませう。改心は最も美しき事ながら、罪の中に生れ罪の空氣に成長ち罪に固まつた人間が忽ち義人に變化する様な奇蹟は御座いません。私共のよく聞く如く、遠藤盛遠が酒色罪の結果、袈裟御前を殺して改心し文覺上人となつたとか、東海道筋の雲助が神崎彌五郎を罵詈嘲弄し、後に義士であつたと聞いてから慚愧に堪えず、佛門に入り彼の後を弔ふたと申ましても何れも其志は清く麗しくありますが、然し、發心して佛門に入つたからとて、今日まで罪の中に沈溺して居た性格が、直ちに立派な聖人の性格を具備するに至つたと思ふは寧ろ愚なる考であります。西洋の詩に『天に昇るに一躍にして達し能はず一段々々、積上し梯子による』とは此意を表はしたものであります。然らばとて改心も進歩を希ふ心も無用であるか、慾深が精神的に、俗人が聖人に、惡人が善人になり能はぬかと反問する愚者もありますまゐ。禽獸でさへ進歩のあるもの、如何て人間に之れ無き事がありませう。益々進んで神の完全なる如く完全になるが希望て、イエスキリストの常に我等に教へ給ひし目的で御座います。只我等の注意すべき事は、希望や改心は入門或は入陣で、卒業或は凱旋ではありません。鍛錬といふ學校に入門するが即ち進歩の第一着であつて、此學校にて孜々として倦まず絶えず勉勵してこそ、目的の域に達し得るもので、飛行機や七里靴は此處には禁物で御座います。

即ち、靈的成長は雨後の筍子の如く突如として發育は出來ません。一夜作りの甘酒の様なものでも御

座いません。手品師が見物人の目を胡麻化して仰天させる様な仕事でもありません。誠の成長は天の晴雨に浴して徐々に萌芽する種子の様なもので御座います。そこでキリストの教へられし意味が解ります『神の國は人種を地に播くが如し日夜起臥する間に種はえいてゝ成長てども其然る故を知ず初には苗つぎに穗いて、穗の中に熟したる穀を結ぶ。』（馬可四〇廿七廿八）

我々は實に弱い者で新年に決心した事を幾度破るでせう。餘り己の誓ひし事を破る事が多くなると自分に愛想がつき、最早決心しても無駄であると思ふ人が往々にありますが、決心は希望と同じく入門であつて、之を破るは學校で落第した様なものであります。然し、いくら落第したとて、それで失望落膽して仕舞へば、卒業は六ケ敷く、勉めて行く内には及第しますと同様に、決心を徒らに放棄せずに、何時迄も仕直す事が必要であります。其内には慣性となり、德が己が身に備はつて參ります。元來學校には及第といふ事がありますけれども、人格には卒業はありません。此世に在る限り學生の態度を忘れてはなりません。人格は常に未成品でありまして完全なものではありません。只完全を望みつゝ段々と發達する様に神が御導き下さるのであります。そこで或人が信者になつたとか、或人は人格を修養したとか云つて、非常に他より尊敬せれて居る者でも、突然存外の罪に陥り惡魔の性格を表す事が往々あります。何故でありませうか、其は十五歳或は二十歳、或は中年過ぎて、初めて神を知つたと申す者が、神を信仰する刹那、神の如く正しく淸く且强くはなれませんからです。過去十五年なり、二十年、三十年四十年たつても、神無かりし時の性質は彼の内に潜伏して居まして、忍はざる時、其の古き形を現はすので御座います。ポーロの如き人でさへ永年キリスト教徒の生活を立派にしながら『われ願ふ所の善は之を行はず反つて願はざる處の惡は之を行へり、是故に我善を行はんと欲ふ時に惡の我に居る此一つの

法あるを覺ゆ、蓋われ內なる人に就ては神の律法を樂しめどもわが肢體に外の法ありて我心の法と戰ひ我を擄にして我が肢體の中にをる罪の法に從はするを悟れり、噫われ困苦人なるかな」と歎息したので御座います。換言すれば惡魔の性質は新らしく得た神の性質を壓倒する場合があります。ダビデの如き日夜神に仕候したとも云ふべき人が心の弛んだ其刹那、奸淫の大罪を犯し、溫和なる事神の如しと云はれしモーセが、イスラエル人に激怒を發した事や、死に至る迄從はんと誓ひしペテロが危險身に迫りし時キリストを知らずと僞りし事、或は近く我々の日常生活に於て立派な信者や、或は修練の積んだ人々が此種の罪を日々犯して居るのを見るてはありませんか。省みて自身の事を顧る時、淸き決心は挫かれ高き祈の內に野卑の觀念が交り、誠を希ひつゝ僞をひ、今日人を赦すと思へば明日は復讐を企て、感謝の舌の乾ぬ中に恨を述べ、實に矛盾した事を各自て仕て居るのに氣附きまして『あゝ我困苦人なる哉』と胸を打つ事が數限りもなくあるので御座います。

獅子使ひが申しますに『馴れた獅子といふものはありません、獅子を使ふのは命懸で御座います、今日は從順しく猫の樣に人の思ひの儘になるかと思へば、翌日は千里の平原に吼え猛る猛獸の性質を現し我々を食ひ殺すかもしれません。』と之が私共の狀態をよく云ひ表はして居ります。

吾等は野獸の性質を抑へて、之を變化させんと致して居りますが、或場合には我等の情慾が本性を現はし、他を亡す如き野獸となつて顯はれます。斯く申して讀者を悲觀させるのではありません。私の意は我等は瞬く間に惡が善に化し、古きものが新しくなり、決心したるが履行出來るといはれない。信者となつたら間違ひないとは云はれません。時々刻々神の靈に依つて聖化されなければなりませんと云ふのであります。神の力により勉め〳〵て居る內に發達して吾々の知らぬ間に神の性質が自分に宿りそれが外に表はれる事は確かで御座います。一度神に近い

たとて、其儘にして置けば勿論遠ざかつて仕舞ます向上せんために、信仰を盛んならしめん爲に、時間も與へず、思考も用ひず、資力も費さず、身體も動かさず、本も讀まず、談話も聽かず、いかで進步發達を望むことが出來ましよふ。考へなければならぬことて御座います。何卒信仰の七里靴を望まず、修養の飛行機に乘る樣な山師的の考を持たず、働くにも、食ふにも、寢ぬるにも聖化されん事を希望して一段々々と神に近づく事を勉め度いと思ひます。

萬國學生祈禱日

昨年十月の本誌に載せたる井深梶之助先生の御話及一月號の津田梅子女史の渡米感想を御讀みになつた方は萬國學生基督敎青年會同盟會といふ大きな團體のある事を御承知と存じます。又井深先生の御話の中の每年萬國學生祈禱日なるものを二月の最後の日曜を以て守る事も御記憶でせう。

基督敎の事業は何によらず祈禱で出來上つて居ります。祈禱なき事業は電線を架しても電氣の傳らない樣なものであります。此事は本誌にも度々書き又講壇からも常に御聽きになる事と思ひます。恰も來る二十二日は其萬國學生祈禱日に當るのでありまして、其主事たるマット博士からも之を守るやうにと希望の通知が參りました。何卒各青年會支部、聖書研究會或は敎會等に於て此日を學生の爲に御守り下さるやうに御願ひ致します。茲に感謝及祈禱の題目を揭げて置きます。

●感謝　過る一年間に於て東洋の學生間に傳道の著しき好結果ありし爲▲支那のみにても千人以上の學生洗禮を志願し、幾千の者聖書研究又は求道會に出入せし事▲キリスト敎學生同盟は印度に於て印度的の方面に進步し自國の大運勢になりつゝある爲▲ロシア學生團體は本部に同盟し著々進步しつゝある事▲ラテンアメリカ（南アメリカ）學生間に忠實と責任の念湧き來りし事▲モハンク湖畔（北米）同盟大會或はフリンストンに開かれし委員會に於ける所の著しき應驗と此集會の學生運動に一歷史を作りし爲

●祈禱　大西洋に於て最も學生間の事業困難にして發達せざるオーストリアハンガリーの青年間に神の力の加はらん事▲バルカン半島の戰爭に引續き是等の諸國の學生間にキリストの道の以前に增して有効に又他方面に擴張せられん事▲北米カンサス市に於ての學生傳道志勇團の大會に於て有志の者多く傳道の爲に獻身を誓ふに至らん事▲東洋の學生間に神の選拔し給ふ働人の多く與へられん爲▲此同盟會の支部（我女子青年會も其一なり）が聖書の研究を猶ほ忠實にせん事を▲キリスト敎的事業の指揮者（敎育、宗敎等に關する機關）が學生をキリストに導き彼等を神の國擴張の爲め徵集せん事を以て最大の必要たる事を愈々深く組織するに至らんが爲。

外遊所見

東京市助役　田川大吉郎

私は土木の方に平常注意をして居る故か、倫敦て第一感じたのは建築の丈夫な事て、大な石て積上てあるを見、此石を何處から如何して動かしたかと謂ふ事てある。何方を見ても石造の堂々たる建築て、大坂城のあの石に比してもよいと思ふ程の石を澤山重ねて建てゝある。是は彼の千六百六十六年の有名な倫敦大火の後將來の大火を防ぐ爲に造れし家屋て市の中心となつて居る。彼の大火て一萬三千戸（日本の小な家の數と違ふ）燒かれ、流行疫病て一年に十萬人も仆れた、其後に將來を思慮して建てた、英國民の永遠の思想には感服せざるを得なかつた。家を城と云ふが、日本ては到底此感念は起らぬが、彼地へ行て始めて成程と考へた。實に城を防禦が如く家を守るのてある。外敵を防ぎ得た倫敦塔と商家の建築と同樣の點があり形狀から見た丈ても、家は城なりの意味を知らせて居る。

羅馬にて聖バーロと云ふ新き教會堂を見物に行つた。長方形の大理石建築で立派なものてあつたが、何となく、もつと先がありそうて完成して居らぬ樣な心地がしたから、案内者にこれは出來上つて居るのかと尋ねたら、未だてあると答えて、裏手に連れ行き、幾年先かは知れないが増築する樣に材料も少々置いてあつたのを見せた。此處のみならず倫敦ても皆此方法て住居ても、商店ても、區域は出來上つて居るが、將來に建增ことを示して居る。假令ば自分の家を建てるにしても、まだ隣の空地に家がないときは、他日他人が其場處に建築する際、自分の家の壁を利用が出來る樣にしてある。又土臺石の突出て

居て其の上に新く建て往ける様に仕向けてあつて、殆んど一軒たけの目的でないことを顯してゐる。又家屋の色てさへ思々に勝手なのを着ける事が出來ぬ法律的壓制て斯くさせる事の是非は別問題として、兎も角も調和を缺かぬ様に注意してある。例へば壯大な倶樂部があり、其側に旅館を建築せんとせば、廣告的に目立つ様なものを造る事は許可されぬ。矢張隣家の調和を取る様、即ち倶樂部の様な建築色合を採用ねばならぬ。巴里市などにては旅館が何か不明ぬので人に指示して貰つて初めて氣が付く事もある。某人が云た事に『西洋人の權利張てる事は彼等の建築の四角張てるにて知れる』と。然し私には圓形なのに大層氣が付た會堂の内部でも席は圓形に取つてある。圓形の公園の周圍の家が半月形を做して居る。恁も國民の性格に圓滿のあるを代表して居る様に思はれた。英國のバーミンハム市に行き、市役所の一室に案内されし時に、案内者が室内の一圓卓を指して『此が英國の誇てある此圓卓を圍む時は黨派はない、委員長も位置の差違もない皆平等てある問題が六ケ敷なつて來た時此を圍んて神に祈が繰返された事は幾度てあるか判らない、此事實を卿に承知して貰ひたい、行政や事物諸般の事は卿の方が御存知てもあり又報告書を御覽になれば直ぐ分るから申上る必要がない』と申した。此が英人の氣性。圓滿が彼等の理想てある。

東京市の墓地を如何にすべきかの問題は、自分の任務でもある處から、常に心を用ゐるのてある。世界に有名なる墓場は、獨逸國ハンバルグ市にある六十萬坪あつて市民は公園と稱してゐる。墺地利國ウイン都の墓地も有名なもので、是も六十萬坪もあると思ふ。此墓所を視察に行て感じたのは、一面に花が咲亂れて公園の實をなしてる事てある。日本人はよく西洋人は冷酷で、基督信者は死者に冷淡だと云ふ。今此ウヰンの墓地て、花が全面にあるのや、石碑を屍の上に建てずに頭の方か足の方に立てゝあり、到る處に天女の彫刻、エスの姿、小供の像、寫

眞などが飾つてある。かく多くの天女の姿を見ては墓場にて死を思はせぬ。新生命の初を思はせる。此は、日本の墓地は死は萬事の終なりと連想せしむるのと如何にも大差がある。加之石碑には聖書の句或は詩を彫み付て、希望と永遠とを顯してゐる。米國にてワシングトンの墓地を訪ふたが、『ワシングトンは爰に休息り』と碑文に記してある。かく墓地を恐しい淋しい處との感想を惹起させぬ。ウキンの墓地にゐた間に葬式が幾つかあつたので其側に列して注目したが、棺を擔ぐ人々の樣子さへ謹愼の態度で、眞面目な莊嚴の姿を日本のと比較して慚愧に堪えない棺の上に土をドシ〳〵かけると云ふ風も先方にはない。尙美しく思ふたのは、花環等が枯死る迄取去られてない。東京では花は片端から盜まれて仕舞ひ同じ花が葬式に二度も三度も使用される樣な日本の風俗を薄しと常に思ふてあつた丈に、其儘にしてある風俗を厚しと感じた。東京のかゝる惡風俗を何日になつたらば矯正が出來るかと殘念と思ふたのであつた。

伯林巴里よりも倫敦に銅像が一番に多數ようである。此等の彫像に對して『神の千年は人の一日の如し』の聖句を想出した。英雄崇拜は我輩の念ではないが、何しろ、何百年も昔の偉人が、今猶生てゐて我等の中に在り。歷史時代を超越して居る心地を與へる。家でも、像でも、墓でも我等を、永遠より永遠に傳はる生命に結び付ける感念を與へる。其のみてない油繪が又此感念を强からしめる。某代議士が洋行するとき、停車場に見送りに來た牧師から『羅馬のバチカンに行き有名なキリストの昇天の繪を觀て來給へ』との送別の言葉を受けた。彼は實に其繪に打たれて今迄冷却せし信仰を復回たとの事を聞いた。歐米て有名な油繪の中心は宗敎畫て、畫工が全心全力を注ぐものは是の外にない。若し此を嫌と思ふ人は歐州美術を識る事は出來まい。無神論者が是は面白くないと云ふは自然のことてあるが、名士の說敎よりも名畫は有力な說敎をして居る。古いの丈

てない新派のても宗教的精神に刺激されてゐる。油繪の精髓は是と思ふ程である。有名な油繪は國寶である。米國てモルガン氏が歐州で買集めた油繪を米國に取寄せたくても稅關が高かくて出來ず、倫敦に預けてあつたが今度餘程稅金を低くして米國に持て來る相だが、其ても七百萬弗で、これが割引である。金額て云ふは妙な樣だが、然し又いかに國民が美術に心を注げるかの一班を知る事が出來る。而して油繪の精髓は宗教にある事と知らねばならぬ。

羅馬て目に付く事は、古物古屋の發掘である。いかにも壯大な建物が堀出れる。ポンペーにも行て見たが、發掘した家屋などは小さい。其等より推測すると或階級は富豪て、或階級は奴隷てあつたことは明白である。旅館にて羅馬書を繰返し一層に興味深く感じた。キリストが「心の貧き者は幸福なり天國は即ち其人のものなればなり」と教へられし事は、只精神的にのみ取らず、實際的にも取るべきものである。即ち階級の軋轢、不平、苦情があつた者に對しての教にあたる。

抑も今日の歐州の平等主義(即ち英國の圓形卓にて顯はれしもの)を持ち來した功績は基督教である階級制度のローマは歐州一般の風であつた。一方には奴隷根性があり、一方には虛榮の生涯があつた。其を今日の平等思想に教化した基督教は偉大であると思ふた。斯る階級制度に就きて我國立憲政治の狀況を連想して愈々實現の我社界に對して我等信者の大責任を思ひ付き得たのは幸福として居る。(本編は田川氏の掲載承認を得たれども文責在記者)

近世女性の典型

(前號の續き)

小山東助

次に第二の典型と認むべき者は、近世に於て女性が公の生活の人として現れて居ることてあります從來は婦人は家庭的に生活すべきものであると極つて居る。家庭を離れた獨立の生活は、婦人に對して

ば何人も豫想しなかつたのでありますが、近世に至つて現れて參りました。而して是は二つの方面から現れて來たのである、卽ち政治の方面に於て……政治問題を取扱ふ役者として婦人が新しき生活を有するやうになつたので、亞米利加などに於ては、學校の校長であるとか、市長であるとか云ふ方面に働く婦人すらも多くなりました。幾多の婦人市長があるのであります。殊に選擧權の擴張運動などに熱中して居りますが、是等の婦人は男子の力を借りて運動して居るのでなく、婦人自ら陣頭に立つて權利を得やうと努めて居るのであります。近頃の新聞で見ますと、英國の宰相アスキス氏の家へ行つて窓硝子を毀したり鐵柵を破つたりしたと云ふやうな亂暴なことをして居るやうでありますが、是等は決して氣紛れでやつて居るのではなく、已むに已まれざる熱情に驅られてやつて居るのであります。熱心の餘り自然激烈な方面に進んで來るのであります。故に婦人の爲すべからざる激烈な行動をのみ責めるのは間違ひであつて、女の爲すべからざる激烈な行動を爲さしむるに至つた根本の覺醒が女の中から湧いて來て居るのであります。何故に斯かる傾向を呈するに至つたかと云ふことは研究すべき事であります。英國の女權擴張論にも多少眞理があります。英國の内閣に於ても半分は女權擴張論者であつて、半分は女權擴張論者でない、議會に於て投票をしたならば如何なる結果になるか分らない。擴張論者の云ふ所を聞いて見ますと、如何にも尤もな點もありまして例へば財産の相續其他の權利に於て現今の制度は決して完全であると云ふことは云へません。馬車に乘つて居る婦人が、馭者が男であるか爲に馭者の身分であつても政治上の權利がある、然るに乘つて居る奥さんが女であるが爲に政治上の權利が無い、馭者でも持つて居る權利を自分は得られないのかと云ふ考への起るのは當然である。隨つて之を要求して得なければならんと云ふのは、つまり政治上社會上に於て目醒めたる婦人であります。と云つて日本に

是種の婦人の澤山出るのを願ふわけてはありませんけれども、斯くの如くにして道理の爲に闘つて居る所の狀態を見ますと、日本の政治上に於て服從を惟れ事として居る吾々男子が愧ぢなければならん點て御座います。私は彼等が社會上の事に就て熱心に働いて居ると云ふ公けの精神に對し深い尊敬を拂ふのてあります。

第三は經濟上のことてありますが、多數の御婦人方のやうに、立派な家庭に育つて、幸福な生活をして居る人々に向つては女子の經濟的境遇と云ふことは何等問題にはなりませんけれども、貧しい家に生れて、教育を受けることも出來ない、結婚をしたが夫にも財産が無い、多くの子弟を養はなければならないと云ふ婦人に取つては經濟問題は何よりも痛切に感ずる大問題てあります。經濟上の獨立的生活を營むと云ふことを云ふのてはなくして、生活上の必要から來るのて、頼るべき親族が無い、自分は生活しなければならん、自分の子供を育てることが出來ない、愛する親兄弟を養ふことが出來ないと云ふ婦人は少くないので、近世の狀態は益々そう云ふ風な多くの婦人を造りつゝあるのてあります。斯う云ふ境遇に在る婦人は段々經濟の獨立を圖り、自分が一個獨立の生活を取つて行くと云ふことを考へるのは自然の要求てあります。そこて或は役人となり、或は銀行會社に勤めなければならんのてありますが經濟上に於て一個獨立の生活をすると云ふことになると、直接婦人に取つて一個の敵と見るべき競爭者がある、即ち既に素地を占領して居る所の男子がある、婦人が官廳なり銀行會社なりへ這入つて行くと自然男子と競爭の位地に立たなければならない、そこて同じやうに教育を受けたものならば同じやうな待遇を受けると云ふことは自然婦人として要求する是は當然のことてあります。當然なことてありますが、同じ教育を受けても社會へ出て職業上の待遇を受けるに方つては男子の方が非常に高い、何うしても將來は同じ教育を受け、同じ能力の有る者に對し

ては同じ待遇をしなければならんのでありまして、今日歐洲の婦人は此方面に目が醒めて居るのであります。社會が不公平な待遇をする理由が無い、斷じて之に反抗して改めて行かなければならんと云ふことになつて居ります。

斯う云ふやうな方面を考へて參りますと澤山御座いますが最後に云ふ事は……、近頃の婦人は教養と云ふ事を重ずるやうになりましたが是は近世の一大特徴であります。今日までの獨逸婦人と云ふものは能く人の云ふことてありますが、三つの事さへ出來れば宜しい、料理をやると云ふこと、着物の世話をすること、教會へ行くこと、獨逸の婦人は今日まで斯樣に考へて來たのでありますが、今日は最早三つのK位て滿足が出來ない。單に子供の世話と云つても衣物や料理位で役には立ちません。小學校から中學校、高等學校、大學までも子供てありますから、矢張り本當に世話することゝなつたならば、お母さんは子供以上の教養がなければならない、子供を監督するだけの能力が要る、子供を教育するには先づ自ら教育しなければならぬ、自ら教育することの出來ない人は子供を教育することは出來んと云ふことは現代の婦人に分つで參りました。單に子供を教育すると云ふことからでなく、一歩出て見ますと、そこには講演會もある、音樂會もある、博物館もある、博物館には繪畫もある彫刻もある。併しそれ等を見ても聞いても自分には分らない、何うかして自分も美しいと云ふことを感じたいと思ふて來る、自分も文明の高い程度のよい物を見たい、聞きたい、文學ても音樂でも味つて見たいと云ふ要求が出て來るのであります。近世歐洲の婦人には此要求が段々盛んになつて、子弟を導き、良人に慰めを與へると云ふことを考へて居ります。良人と共に音樂堂へ行つても音樂を樂むことが出來ない、又思想上の問題を論ずることも出來ない、社會上政治上の問題に付ても興味をもつて語ることが出來ないと云ふ風ては、家庭の和樂も深くは行きません。誠に中流以上の婦人

が此方面に於て勉めつゝあるのでありまして、斯う云ふ婦人は年々歳々殖へて居るのであります。婦人方の中には能く日本の男子は品行が悪いとか、女子に對する取扱が悪いとか申しますが、確かにさうでありまして男子の一人といたしまして御婦人に對して面目もない次第であります。併し同時に男の方からも苦情を申しまするならば、多數の婦人は眞に心の奥底から男子と一致する程の興味があるか何うか、男子を慰めるだけの力があるか何うか、と申しますに、失禮ながら皆さんの前で斷じて無いと云ふことが云へるのであります。家庭に於て男女互に興味を同じうすると云ふ範圍は極めて狹いのであります。そこで男子は家庭以外に興味を求める、男子の墮落する動機の一部はそこにあります。是は男子の缺點でありますけれども、動機は確かに男女互に相理解することが出來ないと云ふことにあるのであつて、日本の婦人が今少し、否モット〳〵敎養と云ふことに重を置かなければならんと思ひます。さうしませんと日本の將來は大に懸念すべきことになるだらうと考へます。

斯くの如く申しますと私は近代女性の新しき典型と云ふものに對して總ての方面に於て樂觀するやうでありますが、缺點の方面も隨分論ずべきものがあります。けれども今日は時間がありませんから他日に讓ることにいたします。斯う云ふ風に近世の女性が智恵の方面にも經濟の方面にも目が醒めて來ましたが、これて根本的に滿足することが出來るか何うかと云ふに、私の考へを申しまするならば是は斷じて出來ないと思ふ。一方に於ては目が醒めて今まで見ることの出來ない新しい世界を見て居りますが、此新しい世界を發見すると同時に、自分の心の奥底に、何とも云はれない悲哀を覺へずに居れませうか寂しさを覺へずに居られませうか。歐洲の醒めた新しい婦人は現に寂しさを感じて居るのであります。何か故に寂しさを感ずるかと云ふに、近世の婦人は動もすれば吾等の精神的生命が永遠の過去から今日

まで流れつゝあるものであると云ふことを忘れて居るからてあります。希臘時代の吾々てないことは無論てあります、中世時代の吾々てないことも確かてありますけれども、吾々は矢張り基督教の與へた所の典型に立戻つて、初めて心の奥底寂しみのない、眞に喜びと感謝とに滿ちた心持になれるのてあります、キリストの信仰の世界、恵みの世界、感謝の世界を忘れました時には、そこに必ず寂しみと悲しみがあると謂はなければなりません。然るに近世の新しい婦人は神を忘れ又た神を忘れんとしつゝあります先達亡くなつた、マキシム、ゴルキーと云ふ人の小說、二十六人の男と一人の乙女と云ふ小說……二十六人の麵麭を燒く男が薄暗い地下室に於て麵麭を燒いて居りますが、窓を明けると十二三才になる一人の乙女があどけない、無邪氣な顔をして、天眞爛漫な天の使のやうに毎朝音づれて來る。男は此乙女を見ることを樂んで、自分等の働いて居る地下室が恰かも天國のやうに感じられると云ふ小說てありますが、其ゴルキーの言葉に『如何に賤しい勞働者てあつても何等か美しいものを崇拜せずには生活することが出來ない』と申して居ります。二十六人の寂しい勞働者が、一人の幼い乙女によつて美しさを發見して、之を崇拜して喜んて生活して居つたと云ふことてありますが、如何なる生活をして居る人ても美を慕ふと云ふ心は絕へずあるのてありまして、吾々の目の前に堪へず眞なるもの、美なるもの、誠なるものを追ひ求めて居るのてあります。此眞なるもの美なるものを慕ふと云ふ心が即ち吾が神さまから與へられた命てあります。眞善美に對する吾々の憧れと云ふものは神さまから戴いた所の恩恵てあります。言葉を換へて言ふならば吾々人類の神の子と唱へらるゝのは、吾々の心の中に眞善美を慕ふ心があるからてあります。加之萬有全體に通じて絕へざる命として千萬年の古へから限りなき永劫の將來まで眞善美の神様が生きて吾々を見、吾々を救ひつゝある、吾々は其心に存在する生きた神の子の魂が、生

きた無限の神様と絶へず繋がつて居ることを感ぜずには居られません。生きた神様と吾々の魂と深き關係のあると云ふことを忘れたならば、吾々は人生と云ふものは實に沙漠のやうに寂しいものであると云ふことを感ぜざるを得ません。近世の婦人のやうに目が醒めても此事を忘れたならば實に物寂しい悲哀の感に打たれるので御座います。神に離るゝや否や神と生きた關係を結ぶや否やが、現代の女性の最大問題であらうと思ひます。眞善美の神を愛すると云ふことは皆さんに取つて一番大切なことであらうと私は思ひます。皆さんは親を愛すると云ふかも知れませんが、親よりも眞善美の神様を愛するものでなければ本當の人にはなれないのであります。自分の兄弟を愛すると云ふかも知れない、併しながら兄弟を愛するよりも眞善美の神様を愛するのでなければ本當の女性にも人間にもなれないのであります。自分の夫を愛すると云ふかも知れないけれども、眞善美の神様を愛するてなければ自分の夫を愛することすら出來ないのであります。私は此點に於て日本の婦人が何れだけ靈的に深くは入つて居るかを危むのであります。夫よりも神様を愛すると云ふことの言へる人は幾らあるかと云ふことは疑問であります。私は此性格が皆様の心に中に鮮かにならない限りは基督の敎は皆さんの心に徹底したものでないと云ふことを感ずるのであります。

私が極めて好きな、且つ尊敬して居る文豪ラスキンの傳記を讀んで、感嘆せざるを得ざる一節があります。ラスキンの文名は世界に唱ると云ふ程で皆さんも御承知の通りでありますが、家庭に於ては實に悲慘な歷史を有つて居る人であります。ラスキンは晩年に於てロジーと云ふ婦人と結婚することになつたのでありますが、ロジーはラスキンを尊敬し且つ愛して居る。ラスキンも、ロジーを尊敬し且つ愛して居つた。而して二人で共に家庭を作ると云ふことになりました。然るにロジーが或る時に、ラスキンが信仰のことに就て書いた論文を讀んで、キリスト

に對する考へが自分と著しく違ふと云ふことを發見しました。ロジーは極めて敬虔な謹み深い婦人でありましたが、ラスキンが自分を愛して居るといふ事は事實であるけれども、併しラスキンが神様を果して何の位愛して居るであらうかと云ふことを怪んだそれで彼女は總ての幸福を犧牲にしてラスキンと結婚することを肯んぜず、遂に其婚約を全うせずに仕舞つたのであります。後ちロジーは大病に罹つて危篤に迫りました。其時にラスキンは無論家庭は作りませんけれども、愛して居つた且つ尊敬して居つたロジーの危篤に陷つた事を知つて、直ぐに友人をロジーの所に送つて、逢ひたい、お見舞をしたいと云ひました所が、ロジーは、若しもラスキンが此私よりもより多く神様を愛すると云ふことを言ふて下さるならば、臨終の床でお目にかゝりたい、と言ひました、所がラスキンは自分は凡ゆる信仰を犧牲にしてもよい程ロジーを愛して居る、何うしても自分はロジーよりも神様を愛すると云ふことが出來ない、ロジーは何と言ふても自分はロジーよりも神様を愛すると云ふことは言はれないと眞心の愛を率直に語りました。ロジーは此返事を聞いて、遂に會見を肯んぜず、天上の人となつて仕舞ひました。ロジーは自分よりも神様を愛すると云ふことの出來ない人は信仰の違ふ人であるから逢ふことを欲しない、今や危篤に陷つて餘命なからんとする際にも、尙自分の信仰に忠實でラスキンに逢ふことを斷つたのであります。ラスキンは非常に感動しました。私は其ラスキンの情の濃やかな愛情の深いのに同情すべきであらうと思ひます、然しながら自分が將に臨終になつても其戀人の爲に信仰を措げなかつたと云ふロジーの尊い人格に對しては、一層驚嘆せざるを得ませんロジーの信仰が果して正しいものであるか何うかと云ふことは玆に論ずるに及びません。唯だ天地に生きた神があつて、それに對しては自分の夫よりも多くの愛を捧げなければならんとの考を有つて居る點に取て、私はロジーの信仰の深く且つ正しいことを

思ふのであります。講演が甚だ長くなりまして皆さんには御迷惑でありませうけれども、要するに近代女性の典型は、決して排斥す可きものでありませんが、基督教的信仰と結び付かなければ、決してその生命を全うする譯には行きません。研究も結構であります、見識も教養も素より必要であります。併しながら、總てを生かすものは信仰の力であります。眞善美の活きた神様を離れては、眞正な幸福を見出す事は出來ません。近代の女性も基督教の洗禮を受けて、始めて永生に入るのであります。(完)

婦人の修養と其活動

木村德藏

昔の諺に「人は都會を作り神は田舍を造る」とありますから此修養會員諸姉の修養として私は私共の自然科學の方面を申上ぐるも宜しからうと思ひます即ち自然は田舍の特有で神の造り給ふたものだからです。それで先づ其方面を主として申上げますが第一に修養の必要、第二修養後の活動、第三活動の行爲、第四成功、第五兩性に差ありや、第六女子の特權、の六つに分けて御話し致します。

第一、修養の必要 現世界の文明をザット淺く觀察しますと一方面に彼の歐米旅行に就て申上ぐれば先づ牧師か傳道者、神學生又は婦人の通過する道筋は概して天國の領分でありまして到る所神の國ありで接する人毎に親切で丁寧で高尚で本當に之なら世界も順次其神の國域を擴張しつゝあることを認めますが扨て其他方面には不道德者の世界旅行、又學者など云て私も確かに見ましたが餘り此地から遠くな

い大學の某博士などの行爲は實に地獄旅行です。兎に角此外に政治家とか實業家とか官吏とか留學生若くは教育家などの所謂不信者の人々の旅行は隨分申上げ難い地獄に道筋をとつて居ります。例へば米國の如きは世界無比の自由國で善きも惡しきも自由に發達した國ですから私の尊敬する第一の人も彼國にあり又た最も忌み嫌ふ者も彼國にあると云ふ様に先づ今日の文明世界には天國もあれば地獄もありと云へますが其孰れかと云へば案外地獄の進歩が勝てるやうに悲觀されます。次に我が日本の現狀を見ますなら彼のジョルダン博士が頻りに云はるゝ様に僅か半世紀位で斯くも早く泰西文明を受け入れた國は古今の世界にないと誠に進歩の早い結構な國です。又た日清日露の二大戰で一等國にもなりました憲法も布かれてあります教育も普及され女子の教育も昔と異なり數多くある女學校で見ても解かります。又た宗教の信仰も自由です、然れど是等の他の方面を御覧なさい。即ち半世紀の泰西文明の輸入は一面に從來の武士道に云はれた「刀の手前」とか借金して返されぬとき又は何か申譯のないことをしたときに、「公衆の前で笑つてくれ」とか或は眞實なる意味の「婦人の貞操」とか云ふことは悉く頽廢に歸しました。又た日清日露の大戰により兵力の强いことは世に知られましたが「强い」と云ふことは「善い」と云ふことになりません。剰へ此勝利後國を擧げて誇大病と虚榮症とに罹りました。次には憲法の下に君民政治が行はる可きのに君民の中間に官吏なる一階級を生じた結果官僚政治の弊によりて苦しむに至り富は大臣大將か御用商人の手に歸し一般民間に富者其人ありと云へば高利貸と云ふので多數の國民は飢と貧とを代表して居ります。又た其民間政治家とて其實力あるにあらず徒に政黨の墮落を表明する次第です又た教育の普及と云て上は大學より下は小學校に至り男女教育の校數は澤山ありませうが所謂教育者の理想多くは國家や教育勅語の裏に利己を固持してるので「不良少年」や「新らしい女」を排出するに至て

居ます。又た一方宗教の現狀を察しますに佛教ては西本願寺派の改革とて此夏東京に私が居る際てしたが私の親しい友達て其熱心な信徒を通ふして其改革事情も耳にしましたと云ふ有樣又た基督教方面はと申せば年々受洗者は增加しませうが教會其ものが有德厚信の人を牧師に要す可きに有才人物を欲する傾向あり同時に信者の頭數增加に忙がはしく宗派の爭もあれば個人相互の排斥も少からずあるので先づ活動すべき新生命の宗教も不振の淵にあると云ふ狀態て之に對しても私は悲觀を致します。斯の如く世界の文明も日本の國家に對しても悲觀するもの多くありますが扨て御互を初め此國家の家庭と吾々個人を如何と見ますならば家庭の事は皆樣御自身能く御存じなので果して道德宗教上理想の主人や家婦が在りて兒女の教育など理想通りに行はれ居りまうか吾々個人に致しましても『ボーロのわれ願ふ所の善は之を行はず反つて願はざる所の惡は之を行へり』噫われなやめる人なるかなこの死の體より我を救はん者は誰ぞや』と憤慨された樣に憤慨し而して其薄信を自覺するものゝ果して何程の努力をなしつゝありや疑はしいもので御座います。斯樣に個人より家庭、國家、世界を擧げて悲觀することの多きを觀察することに天國果して地上に其領域を擴めつゝありやを疑ふもので御座います。而して此際に於ける吾々御互をはじめ世界十五億の人々は一秒一人の割合て死なねばならないので御座います。即ち『ほろぶる此世くちゆく我身……』です。吾等の人生にして無意義ならいざ知らず御互に神を信ずる者にありては大に靜かに考へ深く悟るところありて修養せねばならないと思ひます。殊に此秋と云ふ好時季に置きまして。（未完）

お百合さんと御一緒

在米　加藤高子

十二月廿日　今日は雪が降つて來さうな空模樣て白きクリスマスが來るかと思はれますの、私もまだ

かまだかと油斷して居る間にエス樣の御誕祭が目の前に近づいて來ました。昔のシメオンの樣に主を讃美せよと心を刺される樣です。初めての米國のクリスマス！其當日でなくとももう前から色々印象されて居ります。市中には美しい厩の中の御誕生の光景マリヤ、ヨセフ、天使、羊飼、星、牛や羊等のよく其の意味を表はした大きな繪が廣告の繪の處に出て『日曜學校の先生に此意味を御聞きなさい』と書いてありますの。私は其廣告を見て本當に面白いと思ひました。

昨日は午後から此宅の御二人と名高い御菓子屋へ自働車で行きました。立派な飾りと面白いチョコレートの人形が出來てましたので、見る丈でも御腹が一ぱいになる程でした。途中一番賑しい市街を過ぎました時にもう五日でクリスマスだのに、人通が餘りありませんので、ミス、レノクスの『あゝ、澤山の人が樂しいクリスマスが出來ないのかしら』との優しき同情に悲哀の含みし御言葉に感じました。廿四日にはミス、メリルの御招待により渡邊百合子さんが來られます。家内三人（ミスメリルと御從妹さんと私）で迎ひに行きます。美しい百合の花が其時に咲く樣に待つて居ますの。皆さんて大喜びです。私が嬉しいのか皆さんが嬉しいのか判然らぬ程。廿四日の夕五時頃から市中に出來る大きなクリスマス木を見物にそれから音樂を聞きに行き、食事は二十四日の夜遲くなる準備。廿五日には禮拜。それからは犬のピーケーさんと遊びます。お百合さんは學期後にて疲れて居るとの事てすから充分休ませて上げます。十二月廿九日には青年會のクラブで二人の爲に歡迎會を開いて下さるとか今度は何にか話さなければならないでせうかね。

廿一日　今日は全く光輝ある日曜日、私の心にも確に主エス樣の太陽が輝いて居るかと思ひますの。今日はクリスマス禮拜で御座いました。教會の大きな高い講壇は杉の木を立てゝ丁度森の樣な工合て杉の葉の間から電氣が輝き、眞中に大きな星があつて

パイプオルガンとヴァイオリンとで音樂が莊嚴に始りました時は、自然と敬虔の念が増し、キリストの御降誕を心からハレルヤと唱へました。音樂の良い事堪りませんでした。禮拜の終に『救主』の曲があり『ハレルヤコーラス』になります。會衆は一同起立して默禱で終つて、席を出た時は實に立派でした。私共のクリスマスがクリストに滿ちたものでありたいといふ意味の御説教を聽きました。此禮拜前には日曜學校の式がありましたが、歌や暗誦等の極く簡單なもの。幼稚科のは又堪らぬ程可愛らしいのです全く別の部屋でありました。部屋の隅にエス樣や、マリヤ、ヨセフ、羊飼、羊、博士、驢馬、鳩等が居つて讃美して居る處が作つてあつて、其を子供に見せます。一人可愛らしい子供がマリヤの跪いて居るのを指して、マリヤは疲れてもう驢馬に乘れないで居るのだと申して居ました。實に基督の降誕をよく敎へたものでありました。今日午後から青年會の晩の式には『美術に於けるキリスト』と題して書て說明してお話があります。

廿四日午後三時、お百合さんは愈よ御入來になります。私が嬉しいのみならず、家中の方が大悅び、大歡迎が待伏せして居りますのよ、如何してお百合さんに會ひませうかね。お百合さんは私の眼鏡を知りませんから、少し驚くでせうと思ひますの。四時の到着ですが、それからクリスマス木を見物し、美しい音樂を聞きに行き、それから歸つて遲く七面鳥の御馳走ですの。美しいクリスマスの精神に滿ちた御家で、お百合さんと一緒に御祝ひが出來ます事の幸福、深く〳〵感謝して居ります。御家族も二三年來、此の樣な樂しい幸な光輝あるクリスマスをした事がないとて大悅び！。これから迎に行きます。來ました！。玆で一寸お百合さんの樣子を申しませう一寸も米國化されないで大變に落付いて居らつしゃいます。少々キドッて……。ねー、あの五番町に居つた時の樣な心細い顏は、疲勞したお百合さんでも見えませんでした。丈夫さうに肥つて、少々色が白

くなつて、停車場で對面の時は、何だか、私の知つて居るお百合さんと逢つた様に思ひましたが、なに矢張り元の通りのお百合さんです。停車場から直ぐに賑かな町の喫茶店でチョコレットとトーストで暖りました。お百合さんはリチモンドの靜かな處から來たのですからミルオキー市の夜景で仰天して居ました。卅分程休みましてから愈々五時には市中の教會の鐘が鳴るのでした。一丈五尺の高さクリスマス木が市の圖書館の前の小公園に立つて其の脇で音樂がありました。丁度夕方の靄の中に諸教會の塔が薄れ行く頃、星がきら〳〵して居る處にクリスマス木が輝いて、それは〳〵、大した人出でしたが、皆靜にして『聖き夜』の曲を初めとして段々と曲のあるのを聞いて居りました。家庭で音樂を聞かれない様な人達でも、皆來て樂しまれますから、よい考へだと思ひました。二三曲を聞いて賑かな町を脫けて、靜かなミシガン湖畔を通つて家に歸りました。お百合さんと二階の部屋に參りました時は、嬉しくて何の順序もなく話し立てました。ミス、メリルがお百合さんを食事の時迄、休ませる様にと確く申し渡されて居りましたが、どちらから話すのか知れませんがもう本當にお饒舌でした。階下では食卓の飾りは私共に隱してするとて大騷ぎ。愈よ食事の時には二人とも日本服、三人の御客と家の方々と都合七人の食卓！。眞中にはサンターの橇に乘つて小さい家に行く飾りの可愛らしいものが立てゝありました。私のナプキンの上には赤い箱があつてお百合さんのには色々面白い玩具がありました。實に〳〵大きな七面鳥には仰天しました！。樂しい〳〵愉快な家族の食事が終つてから書齋に參ました。此室は美術的に作つた理想のクリスマス木があります。赤い蠟燭の小さいのが燃えて爐の上の棚には二本の蠟燭が輝いて居りました。ミス、メリルが落附いたランプの光で聖書朗讀、それから蓄音器で調子低く『聖き夜』の曲があつて本當に麗しい夜でした。誰れでも彼でも靜想し默禱してから二三曲あつて散會致しました。

此様な美しいクリスマスの精神を實際見ました家中て靴下を提げて（ビー、ケー犬も）二人で二階に上りまして感謝の祈りを捧げて昔の事を偲ひ、主エスの御降誕の意味を考へて寢たと思ふと、（二時間位たつて居るのですが）窓の下で音樂の音で目が醒めました。私共の行く教會の唱歌隊が『もろびとこぞりて』と、もう一つの曲を唱ひ出して、凍る樣な夜中の一時頃ヴィオリンと合して唱ふて行きました。

廿五日朝二人で食堂に下りて參りましたら客間のストッキングスには、サンダーが色々一ぱい入れて置いて呉れましたのを持つて、食卓につきましたのが、私共は御飯か食べられない程大笑ひて、ストンキングを明けました。日本の蜜柑と金柑があつて一層嬉しさを增しました。書齋に行きましてからクリスマス木の下から澤山の贈物、日本からや其の他の友人からの包は皆其日迄明けられませんので、日本からの豆を開いた時には二人とも大きな聲を出しました。佐藤正子さんからも納豆が來ました。それは〳〵お豆が降つて來ました。部屋中大騷ぎしてから私共四人でクリスマス禮拜に參りました。雪がちら〳〵して來ましたので私は白いクリスマスが出來ると思ふて大喜び。歸途、近くの公園まで行きお百合さんを樂しませました。クリスマスの晩餐には五人の御客をしました。お百合さんの爲と此處の學校の教頭と二人の先生と淋しいクリスマスをするといふ一人の婦人と其甥でした。樂しい食事でした。クリスマスの贈物を一寸申上ますと、外行の手袋（長いハイカラでびつくりしました）寫眞機。銀のボタン掛。狀紙（箱入で私の名のついたもの、生れて初めて）本（美しいのです）暦。日本の煎餅の鑵。美しい前掛と暦。其他樣々でした。私は皆樣に可愛がられてそれは〳〵申上されない樣な親切を受まして何とも言はれず唯々感謝して居ります。日本からも澤山の方々が殊に青年會の方々から色々と戴きまして私は受くる丈けて本當に濟みませんが、實に面白いクリスマスでした。

北京の新生活

北京　加藤さく子

私は當地へ參りました當座は東京戀しく淋しい日を送つて居ましたがバーゼス夫人（舊ミス、フィッシャー女子青年會幹事）を御訪問申し上げてから色々面白い事等を惠まれ、始めの內とは餘程住み心地が異つて參りました。神樣は決して御見捨遊ばさず、私に敬愛する此先生を御與へ下さいました。其上計らずも又當地公使舘書記官の御夫人になつて居らつしやる方は私とは同鄕人、然も私の亡父が御媒介申上た御方で御座いました。それで萬事好都合に參りまして日本の御婦人方との御交際はその方から御紹介を戴き、又一方に於て西洋人との御交際はバーゼス夫人によつて御紹介を戴きつゝありますから御喜び下さいませ。學校で御敎へ戴いた英語がどれ程、今役に立つて居るかしれません。バーゼス夫人は非常に可愛がつて下さいまして、諸所へ御同伴下さいまして、支那人と西洋人との英語會へも連れて下さいました。此會は各土曜日午後其會員方の家で順番に開かれます。私は二度程出席致しました。何れも西洋人の御宅でしたが、かうして居る中には支那の家庭にも追々には接近する事が出來ると思ひ喜んで居ます。本當に支那の婦人は可愛いので御座います。英語の發音なども舌がよく廻りますせいか中々上手です。その會では只今『自然界の比喩』といふ英書を讀んで居ります。集る人は支那婦人が七八人に西洋婦人が五六人日本人は悲しい事には私一人で御座います。勿論これは支那婦人の爲に設けられて在るのでありませうから私にお客樣も同樣。けれども日本人の耻にならない樣にと何だか責任を感じます。又過日バーゼス夫人に『婦女青年會』といふ所に連れて行つていたゞきました。つまり東京の女子青年會と同じものだと思ひます。三人の外國婦人がいらつしやいまして、非常に喜んで下さいまして、又來る樣にと仰て下さいました。其他支那の女學校に敎へて御出の西洋人にも御紹介いたゞき、此度のクリスマスには是非日本の座敷を作つて見せて吳れとの御賴みなども受けて居ます。出來る限りは致す積で居ます。私の北京生活も中々趣味あるものと思はれます。先日或御家に上りまして始めて御目にかゝりました方が計らずも宗敎に熱心な方でありましたが六年越支那に御住居になりまして初めは日本婦人で信者の方があり其方と色々宗敎的奬勵をしていらつしやいましたが、此信者の方が御歸國後は良い友もなく殊に聖書の研究に心を向けて居られるのだそうですが未だ良い先生もなく、探していらつしやるとか。どうか良い先生を見付て吳れとの御賴みを受けました。實は私も探して居るので御座いますが日本語でのはとても六ケ敷う御座います。それで西洋の婦人方に御相談申上ましたら支那語で分るなら喜んで致して上げるとか仰せられました。勿論六年もいらつしやるのですから御解りになるのでせうから伺つて見やうと思ひます。若しうまくまゐりますと私も滿足に存じます。先日或日本婦人で支那人の奧樣になつていらつしやる方がミセスバーゼス夫人と私とを御招き下さいまして御一緒にお話致しました。其奧樣は支那へ二三ケ月前に御出の由。東京女醫學校御出身とかで御座います。追々御親しくして戴きましよう。（十二月十五日記）

□日本座敷□　渡來ましてから日も淺い土地で到底クリスマスなどに出席は出來ぬと思込で居りましたのを、一ッならず三ッまでも降誕祝賀會に出席いたしました。其中の一は支那の女學校內ので生徒の餘興に支、英、日の冬座敷を作りました。私は日本のを御手傳ひ申上げました。日本の部屋と容易の事に日本ではお思たでしようが、支那家庭に道具とてもない、疊もないので隨分心配いたしましたが、兎も角も疊敷にして正面を日本屛風であしらひ、床の間を作て掛物をかけ香爐を置き花を挿し、一寸日本風に出來ました。座敷には火鉢と座蒲團を置き少く離れて茶の湯道具を一通り、形ばかりの御茶をたてまして、御客樣に御目にかけ、後に煎茶に日本の煎餅と干菓子をあしらひて上げました。支那の娘御二人、十四才と十一才とを御稚子に結ひ、日本服で帶を矢の字に締めさせて『御茶を一ッ』『御菓子はいかゞ』の二語を前日から敎へてやりまして、御客樣の中を廻らせました。豫定が三十人でしたのに、急に七八十人に增へましたので少なからず迷ひました。實に英語をも少し深く存じて居りましたならば、西洋の方々とも色々御相談も出來ますのにと思ひました。然し、御蔭樣で異國でクリスマスの眞個の幸福を味ひ得られました。（一月六日記）

小説 ひとりぼつち後篇

河井道子譯

第二章（一）

灌木喬木が入亂れて青々とした芝生の垣を作つた其中にベテーは一人佇んで居ります、丁度清朗な春の朝の事で鶺鴒、駒鳥が美しく唱ひ、櫻草や春の草花の芳香が馥郁と周圍に滿ちて居ます、春の朝ならではこのえもいはれぬ恍惚たる感動や起死回生を何が與へませう。ベテーは今後數ケ月自分の假の住居となりし牧師館を茫然と眺めて居ます、此館は灰色石の建築で窓扉は外に開く古風な茅葺の長い平家であります、外壁には茉莉、女萎、薔薇、常春藤等が窓の周圍を我劣らじと取絡いて居れば、下の低い花壇には大小紅白の水仙が砂礫道を縁取り、紫丁香花金鎖は邊りの薄暗い草叢を彩色て居ります、新緑をつけた栗と楡の並木道の中間から古い教會の尖塔が覗き込んで居ます、母親は未だ起床ないと見えて部屋の窓が閉ぢてありますのを芝生から見詰めて居ますベテーは、マレーと二人で早く朝飯を濟ませ、其後、姉は器具、食品、調度等を檢視て居ます間、自分は一、二時間まだ用事がないので庭に出て來た處であります。

戸外がこんなに美しいのに誰が女中の荷解など見て居たいものですか、況してベテーの性質として之は出來ません、彼女は芝生に踊り出て脣頭にも心中にも歌を唱ひつゝ並木道や庭を跳廻りつゝ、

『あゝ綺麗だ々々、心持が良い事、是が嬉しい事の冒頭だ』と叫でゐます。

母と娘二人は女中を呼で前の晩に此地に到着た計りです、思ひ立つたが吉日と直ぐ轉地保養を實行したのであります、不思議にもベテーが行きませうと言ひましたその丁度の場所に貸家がありました、此村の牧師は病身な妻を伴れて外國に旅行中は彼の牧師館が貸家になり、副牧師は近處の農家に寄宿する事となつて居ました、而も此農家は昔ストワード家

の子供五人が居た同家であります、此館の隣が教會續きの墓地であるので小さな門て往來が出來ます、ベテーは今柴戸を開いて教會の庭内に行ますと既往の思出が潮の如くに湧出ました、まあ此所は何て變らないのでせう、只會堂が昔見たより狹隘て新石碑の數が增た事と楡の古木の頂上にある鳥の巣が子供の時に思ふた程天に近く見えませんでした、稱と入口の厚重い樫の扉を推して内部に入ると、昔よりも塵ぽく、陰氣地味して居ますが、堂内の横側に合掌瞑目して横臥て居るヴァイヲレット、ラセルの石膏の寢棺だけは昔も今も變らずに美しう御座います實に其清淨優麗い可憐なる姿には、何の非難の打様もなく、夕日が上部の彩色硝子窓から照して居ませんでも、何やら光線が皆此の少女の碑に集注た樣に薄暗い周圍を壓して特別に目立つて居ました、ベテーが十何年前に此碑を始めて見た時や、又此像に幼心を占領された事等の、追憶の情抑へ難く涙ぐみながら一人淋しき微笑を洩しました。彼女はヴァイオレットの側なる窓を仰視てイエス樣の御膝許に大勢の子供等が懷敷げに寄縋り凭れ掛つて居るのを凝視た時は感情慧敏な顏に一種の憂雲が懸りました、「もう一度幼兒になり度い事、幼年時代は神樣の愛がよく解つて居たが」と我知らず歎息を致しました、思ひに惱むが如く頭を垂れて風琴の方に徐歩しましたこれぞネスター孃の彈奏て幼いベテーを感動させて歡喜の歔欷をさせたものであります、嬉しい事には風琴に鍵が掛けてありませんでした、「あゝ誰れか送風器を動かして呉れる人はないかしら搜して來やう昔聽いた樣な音を出せるか試して見たいものだ」と云ひつゝ大急ぎで教會を出て一番近い田舍家に入りますと色艶のよい若い女が臺所で働いて居ます。

「風入者ですかお孃樣」

「閑暇な人が居るか何か解りませんね、子供達は學校へ昇ましたし、若衆は仕事に出ましたし、日曜日には村の校長さんがお彈なさいますが、其時はお息子さんが風入れをなさいます」

『老人は一人も無てせうか、昔の會堂番は未だ存命て居ますか、私は子供の時よく知つて居ましたの』

『まあお孃樣彼人は死でから十年にもなります、今はジヨンスミスが番人て閑暇な時はリーさんの畑て稼いて居ます、ひよつとするとマツトが御手傳するかも知れません、彼人は怪我が原因て盲人になりましたが丈夫な人間てす、籠等製造て暮して居ますが不景氣だもんて夫れもしないて遊んて居ます、やれ噂をすれば影とやら、向から歩て來ましたお尋ねになつたら如何てせう』

ベテーは通りの方へ出て行き、今女の話した盲目に逢ひました、熟視れば中々屈强な體軀に締つた顔貌の老人てベテーが風入の事を云ふや直ちに不快な冷笑が彼の唇頭を動かしました。

『教會堂等俺にや道じやネエ、お孃さん俺と彼處とは東と西と位え緣遠いのてがんす、彼んな處アみんな腐敗つた愚魯眞似さ、誰れがきこうと遠慮アねえんだ』餘り亂暴の言方にベテーは吃驚いて賴むまいかと一時は思つたが音樂好の情が制へ難く遂に優しく、

『唯一度だけ仕て貰へば私は本當に有難いんてすよ長く暇はかけませんからね』マツトは煩惱そうに杖てごと／＼地を叩いて澁々と、

『誰れも無くつて困りあ、私しや一度してやるが二度は御免てがんす』

『有難う、それぢや私が先に行きますが宜しくつて路を知つて居て』とベテーは大喜悦て教會の方に急ぎ足て向ひました。

『道ぐれえ分別らねえなら俺しは大馬鹿三太さ、八年の上も鐘撞した人間だ。』と不躾な返事、

『それは怪我をしなかつた前の事てせう』

『其通りさ、怪我の後てあんな事するものかナ、出來りや大喜びて釣鐘の綱振切つて仕舞え度えのさ、牧師さんの訪問る足音か鐘の音か何方が厭な音だんべえなあ、わしや毎日曜に寺の鐘が聽きたくねえから態々二里も出て行くんだよ』ベテーは何と返事の

仕様も知らず多分この老人の身に降掛つた困難辛苦が僻んだ者にしたのだと判斷して居ました、爺は無言の儘處女に從いて會堂に行きオルガンの方へ手探つて近寄り、不精無精に風を入れ始めました、彈奏者は音樂に氣を呑まれオルガンの美音に恍惚として一時間も彈いて居る事に氣付きませんでしたが俄に立上り老人に詫をした處、彼はよく聞きもせず、『もう二度とは御免だ』と呟きつゝ杖でこと／＼床の上を叩き探つて出て行きました。ベテーは愉快な光澤を目に浮べて徐々歸り行く道すがら一瞬間立止まり再び青き牧場や遙かの森林より己が周圍の若葉に視線を動かし晴朗た蒼天を仰ぎ『本當に綺麗だ、此處でこそ不滿足の思は決して無い』と微笑む姿を畫にでもしたらさぞ愛らしう見事な事でせう。

　ストワード夫人は此閑靜な周圍が氣に入つて、客間の開放した窓側に書物や手紙等閱つゝ長椅子に横臥なるのが例でした、時にはマレの肩に靠れて古雅な庭園を逍遙る事もあり、又夕食後は二人の娘に奏樂などさせ或は新聞雜誌を讀ませ等して靜養して居ます、到着後數日經て副牧師が訪問致しました、見れば如何にも痩せた神經的な學者風の人ですが、夫人は話せる人と見て取り談話に花を咲かせ、又牧師の方でも斯かる博聞多識の夫人を識るを喜ぶ樣に見え從つて往來も繁く時には議論めいた對話など出ますと、マレーは飽き／＼して疲れ出すのに引換へ妹は增々興味を感じ隅の窓端に腰打掛けて熱心に母と牧師の議論に耳を傾け飽くを知らぬ樣子であります某夕は因果應報が話題となりベンソン牧師の云ひますに、

『私は我等の歡樂と悲哀とは平等に分けてあると思ひます、勿論或人は他よりもより多く苦む生涯を持つて居りますが若し內外部の生涯を皆廣げ出せば彼等の歡樂を比例よく行つて居ります、非常に困苦を耐忍し能ふ人間は又非常な喜樂を玩味ひ得る者であります、畢竟、眞面目な深慮い性質は何れにもあり一番强く深く感じますものであります』夫人は首

を振り、

『貴兄は斯んな片鄙に居られては悲哀の悲劇など御覧なさらないでせう、鄙の人は皆呑氣な氣樂な者ですが、飢餓に迫るとか生死の境に立ち生活の重荷と苦勞とに踠いて居るのは大都會に居る細民の事です私は親から子と二代家族中が執拗い危禍の死神に纒つかれて爲る事なす事変䘵鳥の嘴と食違ひ失敗に失敗を重ね、小さな子供達の顔にも失敗と零落ながら現はれば大人の顔には世人に對しても憎怨、宿命に對しての憤慨の色があり〳〵と記載してあり實際の悲劇を演じて居るのを知てゐます』

『拙者は此地に五年しか在職ませんが斯様小さな村落にも貴女方の目には呑氣な氣樂なと見えます中に失意失望て死にました者を三人埋葬致しました、其他到底語り得ざる計りの苦痛を負ふて生殘つて居る者を五人數へる事が出來ます、此氣樂そうな村の中て何か彼かの悲哀の無い家庭は一軒も御座いませんいや現在一人の最も同情すべき者が常に私の心から離れません』

『一體、それは如何いふ人ですか』

日の本女學校々歌

一　神により立ちにし　學び家の子
　　山の上の城はも　隱るゝことなし
　　折　あゝわが日の本　父の神の御光
　　返　國にも家にも　あまねく輝け

二　杉のみどり常盤に　姫山男山と
　　並び立ちてかわらず　操はみてたし

三　流れつきぬいち川　源きよけし
　　神の活ける眞清水　心を洗はめ

病床にて

漢江同仁病院　一　患　者

一　病床に送る百餘日　燕南に去りて胡雁啼く
　　時に意識なし熱のため　時に菓子をねだる事小兒の如し
　　されど恩寵つきずして　勝ち得たりチブス菌百億の敵

二尊きかな神の愛　讃むべきかな主の恩寵
罪の生涯二十有九年　天の父猶我に生命をかす
思へ御心のある所　祈れ御聲を聴かんため
三我身も魂も主の前に　捧げまつりて御冠の
其御光の一筋なりと　表はすを得ば父の神も
いかに喜び給ふらん　祈れ御助あらんため

南京城

同　人

一東雨花臺西獅子山　南を擁す紫金天寶
岩いかめしく聳え立ち　北に流るゝ揚子江
流急にして輻廣し　宜なり明の大宗が
此地撰ひて都とし　内に廻す城壁高く
外をもかこむ數百里　今も昔のもゝなりき
二されど孝稜徒らに　風雨のなすがまゝとなり
故宮の跡や漢人屋敷　高粱青し一丈餘
そよ吹く風に葉の揺て　囁くは何ぞ聴けよ人
榮枯盛衰定めなき　世の有樣を目の當り
示して後の人々を　誡めんとする聲なれや
三嗚呼汝が心高ぶりて　平和にありて亂を忘れて
さらずば汝もいつか又　遂に枯れなんいたづらに
白骨野に横れば　萓眼孔をらぬきて

○

大村くら

朝は玉の如き顔を、　彩雲に包み、
夕は紫紺の裳を長く、　雲外に曳く、
富士よ、　富士よ、　笑めよ、
新年の富士よ、　友のおもわと。
新年は新責任を、　我に負はせ、
舊交は舊情願を、　君に寄せしむ、
ながに、　さちに、　おもう、
こゝろの友垣、　いよゝさかえよ。

○

寺西良藏

雪ふりつもりける朝に寄宿舍なる
子の許へよみてつかはしける
朝まだきつもる白雪ふみわけて

まなひのにはに君か行くらむ

イエスキリスト

昔の聖のかすはおほくあれと
ナサレのエスそわか思ふなる

亡き母を思ひいてゝ

天にますみ神をしれる人はあれど
わかためいのる人のなきかな

○　莞爾

柏井園氏の話の内に『眞珠貝の中にある砂は眞珠を着て眞珠になる。パウロは屢々基督を衣ると云ふ事を說く』とありければ

憂鬱でありし或る夫人が『一度び神を信ずるに至り氣分淸々したり』との告白を聞きければ、

脫き捨てゝ心も輕く衣更

長尾半平氏愛子を失はれし當時、若し畫工をして此出來事を畫かしむるならば、廣々としたる綠の野に、一人の幼兒が一道の光明を望んで步みを早めつゝ行く。其の遙か彼方より兩親と友の四五人が之を呼び留めて居る。幼兒は振り返りつゝ尙急き足に彼方へ往く圖であるといはれたれば、

心から先づ夜が明けて初鳥

ふり返れよし鳴かずとも蜀魂

衛生

肺結核は如何にして傳染するか

グリスウオルド

▲肺結核の原因

肺結核は實に恐るべき病氣で御座いますが、私共がこの病氣に對する態度は徒に恐れてばかり居ても仕方はありません。之を撲滅するにしても、之を豫防するにしても、最も大切な事は其病氣の原因を調べたり、其病氣の傳播する具合を究めたり、或は之れに罹つた場合の處置、之れに罹らないやうにする準備など、すべて此病に關する智識を得ることであると思ひます。この智識が一般に普及するやうになれば恐るべき肺結核でも自然と之を防ぎ之を滅すやうな方法も立つ事が出來ると思ふのであります。

偖て、肺結核の原因は何であるかと申ますと、昔

は其原因を知るものはありませんでしたが、千八百八十二年(明治十五年)にカクといふ獨乙人が其原因を發見いたしました。其原因は細菌であつて、其細菌は他のすべての細菌と同じやうに極細微なもので針の先に約九百程附着させる事が出來る。若し郵便切手の上ならば約四百萬程附着せしむる事が出來るといふ位の細菌であります。無論之れは細微なものでありますから肉眼を以て見るといふやうなことは到底出來ませんけれども實に危險なものでありまして、此細菌こそ凡ての結核症の原因となるものであるので御座います。

▲細菌の生存力

この細菌は人の身體の中に入りますならば、殊に肺に入れば非常の增殖力を增すのでありまして、肺は一番適當な細菌の繁殖所であります。勿論外の部分にあつても別に增殖する事は無くも、能く生存する力はあるので御座いまして、元來この細菌は生存力が强くて容易に死なないものであります。殊に日光の映し込まない暗い所では長く生存するので御座います。寒い所でも矢張り死なない。

▲日光の入らぬ所に醫者が入る

唯細菌の强敵は日光でありまして、能く日光のさし込む所に於ては一番よい消毒をして細菌を殺す事が出來るのであります。能く肺結核で患ふ人の居所を考へて見ますと、碌に日光の入らない暗いやうな部屋が多いので御座います。貧民などでも兎かく薄暗いやうな家に住で居るものゝ中に此の病が多いやうで御座います。如何してもこの細菌は暗い所に多いと見へます。而して一旦此病氣に罹ると病人でありますから大抵日當りのよい廣い座敷に置かないで陰の方の小さい暗い座敷に起居させるのが多いのでありまして、自然と細菌の繁殖を助長するやうな傾が御座います。昔から「日光の入らない所には醫者

が入る』と申ますが、それは此のやうなことをいつたもので御座いませう。

▲肺結核は勿論傳染する

そして此の肺結核は云ふ迄もなく傳染病で御座いまして、肺結核患者が斷へず吐出する痰は實に其最も危險なものであります。患者は自分の病氣に就ての智識に乏しくて其原因も其傳染力も深く知りませんから無暗に痰を吐いて、家といはず、道といはず庭といはず、汽車の中でも停車場でも、所撰はず吐き散らすのでありますが、之は單に汚ない癖といふばかりでなく、其の痰が乾いて塵に雜つて飛散いたしますから、外の健康の人が其を吸ひ込んで傳染を受けるのであります。之れを考へて見ると、道に吐出する一片の痰でも實に恐しくて決して油斷はならぬのであります。

傳染は唯そればかりで御座いません。私共が住所を轉ずる場合などにも傳染することが多いと思ひます。例へば既に肺結核患者のあつた家へ引越して參りますならば、餘程危險なことであると思ひます。若し其人に傳染して其人が他へ轉居したとすれば、其跡へ引越して來る人はまた傳染の危險を冒すものといはねばなりません。斯くして再三再四住む人を異にする度に病毒は次へ／＼と送り傳へられる事となる譯で、其害毒は幾人に傳播する事になるか分らないのであります。又一家の中に一人の肺結核患者が出來たとすれば、同じ蒲團の中に休むとか、餘り近く病人に接するとか致しますならば、直に傳染するので御座います。或る人は肺結核患者と同じ皿同じ道具を使ふ、同じ手拭などを使ふ。實に危險なことであります。

▲接吻は危險

西洋人に接吻といふ惡い癖がありますが、これなども病氣傳染の媒介の一となるのであります。たとへば肺結核患者と接吻するならば如何でせう。又た

肺患の人が可愛らしい子供を見て、之を抱き上げて接吻するならば如何でせう。實に之れは子供を殺すのと同じ結果になるのではありませんか。又た子供や學生などにある惡い癖は玩弄物とか、鉛筆とか、筆先とか、其んなものを口に入れて嘗める事でありまして、恐しい事であります。私は學校でも家庭でも其學生や子供に其癖を嚴重に禁止するやうに忠告したいと思ふ事で御座います。（未完）

新刊

△天路歴程　バンヤン作、松本雲舟氏譯

天路歴程は從來既に數氏の譯書が世に行はれて居るが、かくも全體を忠實に譯せられたのは、本書が初めてゞある。この書はもとクリスチャンの救ひに至る道を譬諭して述べたもので、正篇には基督者と名づくる者がシオンの都を望んで迫害、困難、誘惑等さまざまの試驗に遇ふて、遂にその目的地に凱歌を奏するを說き、續篇にはその妻基督女とその子等が基督者の後を慕ふて同じ旅へと志すを說き、何れも巧みに基督の恩寵を說教して居る。されば聖書を學ぶ者のよき參考書ともなる。氏は曩きにバンヤンの『聖戰』及び『恩寵溢るゝの記』を譯されたが、こゝに本書を出して、バンヤンの三大傑作を完成、紹介するに至つた勞を多とする。譯筆亦愈圓熟の域に達し、平明にして心地よし。（發行所東京京橋區尾張町警醒社定價金壹圓五拾錢）

各支部及會員諸姉へ

「女子青年界」は我女子青年會聯合の鏈鎖を以て任し各地青年會の狀況を掲載し相互に各地の模樣を知悉し氣脉を通じて相應援し相勵み相進みて本會の發展を期したく存候につきては何卒各支部よりは細大洩らさず時々の御狀況御通信被成下度御願申上候。

又た本誌は會員諸姉の所說所感詩歌其他をも掲載して青年婦人の思想を發表する機關たらんことを望み候へば誌面の一部分を提供して其ために致度候勿論紙面に限りあれば載否は編輯者の意に御任せ下さるにの外なきも幸會員諸姉か御遠慮なく御投稿被下度希望仕候

（東京市牛込區田町三ノ十二日本基督教女子青年會本部編輯部）

彙報

停車場に於ける新事業

（旅行者の友）

現今停車場の如き雑踏の場所に於て婦女子の保護又は案内等の必要は日増に切實に感ずる所にして豫てより注目しつゝありしが、前號所報の如く今回東京基督教女子青年會の事業として開始する事を議決し、殊に今年は大正博覧會の開設あり、又た主任として林房子の就職を得たれば早速昨年末より實行の運びに至りたり。この事業に就ては床次鐵道院總裁を始め上野驛長上野警察署長等よりも少なからず同情を表され萬事好都合に進捗しつゝあり。事務所は本郷區湯島天神町一ノ二十四に置き、林主任は此所に起居し毎日上野停車場に出張し胸間には『旅行者の友』と鮮明に記載したる徽章を帶び一見誰人にも分り易く、誰人を問はず婦人の為に保護案内の任に當る事とせり。其働の概略は左記林主任の報告に就て一覧されたし。又た斯の事業のために本會の負擔すべき經費は年額一千圓以上を要すべき豫定なれども之れ同情ある諸氏の贊翼に待つの外なければ願くは内外有志の同情を賜はらんことを切望す。」

舊臘十六日から上野に出張して婦人旅行者の御世話する事を始めました、冬期五時半に上野着の奥羽線に間に合ふ様に心掛ますと實に朝三時頃から目が醒めて心配で堪りません、然し御用になる事と思ひ喜んで日々上野驛に出て居ります、何分かゝる事業は今迄何處にもありませんでしたから人々の信用を受る迄には忍耐が必要と思ひます、先づ第一の困難は縦令自宅から逃亡して來る樣な者でも無錢の者でも停車場に着次第成可く早々其處を出てしまひますから助を要するかどうか中々見別がつきません又此人々は必ず保護が必要と目をつけましたものでも私を不審がつて中々返事を致しません之は一方からいふと結構な事で來る人毎に他人に親切な言葉をかけられると信用する樣では危險此上なしでありますから他人の私を信じない事は惡いとは思ひません、次の困難は若し誰かを世話し樣と思つて居ると忽ち周圍に野次馬が集つて來る事で御座います、然し追々私の役目が解り此事業が世間に知れますと此樣な困難は消えて仕舞ますのは自然の事で御座います、扨私の方法を申しますと第一此者は保護が必要と認めますと兎も角も湯島天神町の住居に伴れて參りそして身元を聞き話をしてそれ〳〵の救策をたてます、然し家まで伴れて來るといふ事は非常に困難であります、田舍で彼等はいつ

も東京に行くと誘拐者が多いから氣をつけろと注意されてあります爲か話し掛けても返事をしないとか爭突を食はせる者等があつて家迄伴れて來る事は六ケ敷いのであります、是も一つのよい事とは信じて居りますが事業上の困難は此處にもあります、過日も數人の女が確かに不案内の様子でありますので何か御世話が出來ませうかと申しますと其中の年増の者がだまつてろ〳〵と同伴の者に言ひ皆私に脊を向けて仕舞つた事がありました、先今迄のは當方の好意を冷淡てあしらうのが常で御座います、去一ケ月間の事を略記しますと停車場に迎の來らざりし者又行先の名前を忘却した様な　を先まで送り屆けたものが數件あります、何れも丁寧な禮狀が參りました、宿に泊めましたのは十五になる少女これは無斷で上京した者で遂に親元より人を呼びよせて歸らせました、次に北海道より夫婦喧嘩をして實家能登に歸る積で一先づ東京に來た女を數日間泊めました之も親元、夫に照會し工夫して親元に歸らせました、次は七十歳以上盲目の老婆之は茨城縣より實子を賴り上京したが嫁が僞つて親子の對面を免さず遂に又鄕里に追歸したのであります此老人は盲目で實に可愛そうな境遇の者で一夜を警察の拘留所に明し巡査より嫁を呼出し說得して貰ひ漸く旅費丈を貰ひ茨城に歸らうとして停車場まで來りしが乘り後れて場內に逍遙し居るを認め一晩泊め翌日汽車に乘り込ませました此時上野驛の係の人も親切にして步み得ざる老人の手を引いて列車に入れ行先に電報まで打て下さいました次には埼玉縣下の者で二人連れの十八歳の娘一人は無斷一人は許可を得しと云ふものゝ勝手にせよとでも云はれし爲の上京と見えます此二人は百姓の娘にて如何にも百姓が辛く又様々の苦しき境遇を敢果なみ上京の上奉公でもしやうと云ふ漠然たる目的にて來りたる者にて上野山か淺草公園にて一夜を明し翌日奉公口を探さんと驛前にて車屋と交涉中を發見し家に連れ行き世話をしましてそれ〴〵親に交涉し相當の處に奉公させんと思ひなほ家に泊めてあります。

是より驛內の係の人の話には夜間到着の列車に難儀なる者もあるらしく見へるとの事でありますから近き內女子青年會では又一人係の者を殖し深夜に至る迄驛に居らしむる様の計畫を立てゝ居ます、東北の凶作地より隨分女工とか奉公等の目的で出て來る者又惡人に誘拐されて出て來る者も殖る事と思ひます、此事業を段々擴張して停車場のみならず停車場附近等にも救濟の道の必要がある様切に感じて居ります。（婦人保護案内事業主任林房子）

支部

●●●●●●●停車場事業委員會　一月號に幷に前項紹介せし旅行者案內の事業は着々奏効しつゝあり將來は必ず一大事業とならん事を期す、最初一名の係員を以て之に當らしめしも手不足のため尙一名增す事とせり。同事業第一會委員會を一月六日新渡戶夫人宅にて開き種々の要件を協議せり。該事業委員は左の通り、

委員長　新渡戶まり子　委員　子爵夫人森寬子、小室みえ子、堀內和子、河井道子、ミセス、ピカステス、ミセス、パービス、ミス、マクドナルド、ミス、ワトネ、

●●●●河井幹事　仙臺日本基督敎會婦人會の招待を受け一月下旬該地に赴けり。

德島女子青年會

大正二年に於ける本部の内外部に御發展の事は『女子青年界に』て御見受申し蔭ながら感謝致して居ります。又『女子青年界』皆々様が御職務の傍熱心に主の爲に御働き遊す御様子を拜見致しまして嬉しく思ひます。當女子青年會は河井幹事が御出下さいました時には彼の様に盛んで御座いましたが、其後ミス、マキーが御歸英なさいましたり熱心な生徒が卒業して歸郷されたり、色々な故障がありまして誠に寂しくなりました。これも矢張り私共の力の足りない爲でありますと悔んで居ります。又々今春は五六名の熱心なる會員が師範を卒業なさいますから多大の影響を蒙る事であらふと思ひます。然し三月にはミス、マキーも來朝せらるゝ筈でありますし、私も昨年は教會に屬する傳道が多忙でありましたが今年は會の爲めに多く時間を用ひませうと思ひますから新らしき會員を導く事が出來ませうかと思ひます。新らしく聖靈の御力に充されて働き度う御座いますから皆様何卒御祈の端に御加へ下さいます様に願ひます。先づ其手始めとして本月八日に親睦會を開いて多くの姉妹方を招き度いと思ひますから特に其爲御祈り下さい。(池田照子報)

札幌女子青年會

昨年中は一方ならぬ御世話様に相成有難く御禮申上候、度々勝手なる御願を致し其都度御親切に多大なる御助力を賜り恐れ入り申候、去る年は神の前に爲す處多からむと期し居候ひしも信仰薄弱にて思ひの半ばも達し得ず誠に口惜しく存じ居候、唯高女の聖書の組の再興せられ候事其他の組にも多數の求道者を増し數名の入會者ありし事は感謝の至りに候。去年は本道未曾有の凶作の爲窮民多く私共も其救濟の爲微力を盡し度と慰問袋を作り襦袢、足袋、帳面、鉛筆、宗教雜誌、餅などを入れ送り居候、何卒御祝福の御手の加はらん事を御祈り被下度候。又來月は役員改選の事とて適當なる人の與へられん爲に今より祈り居候。本年こそは過去の失敗を階段として高きに進み度候新しき歌を唱へつゝ勇ましく善き戰を戰ひて勝利を得まほしと存

じ居候。

横濱女子青年幹會事　二宮幹事辭任につき暫時久野久子姉に依囑し事務萬般を取扱ふことゝせり

共立女學校靑年會

昨年十一月廿四日に慈善會を開いて一生懸命に感謝日の贈物の用意を致しました。會員は皆熱心に襦袢、蒲團等色々と縫ひましたが其一針々々の内にどれ丈の眞心が籠つて縦令品は粗末でも僅でも着る人の心をどれ程喜ばせる事が出來るかと思ひました。皆樣の働いて居られる所を寫眞にてもして御送り致し度い程でした▲十一月廿七日は待ちに待つた感謝日、會員始め一同は大喜びで各々過去一年間に受けた惠の感謝の幾分なりとも表はさうと米、麥、衣類、果物、金錢等思ひ〳〵に持參し御前に捧げて八時三十五分から感謝の禮拜を講堂で致しました。昨年と違ひ今年は一人の巡査に依賴して本當に困つてどうする事も出來ない樣な家三十軒に施す事にし貧者へは巡査から夫々の住所姓名を書いた紙を渡してありましたから二十八日午後三時から右の巡査がついて待ち遠しいと云ふ樣な顏をして目の見えない者やら手足の自由の利かない者など大勢門前に集つて參りましたので感謝日の意味を簡單に說明し私共の信じて居る眞の神樣を紹介し札を持つて居る者を順に一列に並ばせて前の日に三十に等分して一々袋に入れて置いた芋(三貫目計)米一升、衣類はそれ〴〵の身分即ち子供のある人には子供に着られる樣な物を分けて與へました、中には尋ねもしないのに息子が兵隊に出て後に殘つてこんなに困つて居る等と淚を流して話した者も居りました、札と引換に是等の物を遣しました時其喜びはとても筆紙に表はす事は出來ません。此の樣子を見た私共も滿足と感謝に堪えませんでした。『受くるより與ふるは幸なり』とは實に此の狀態を申すので御座いませう。是等の事を聞きつけて夜になつてからも幾人かが少してもよいから戴き度いと言つて參りましたがなだめる樣に慰める樣にしてもう無いから明年は上げますからと云つて歸しました。來年はもつ

と澤山の人に施し度いと今から一同心掛けて居ります▲新年を迎へましたと共に會員一同は新らしい元氣と信仰とを以て前年にも増して御名の爲又青年會の爲に全身全力を盡す考て御座います。

プール女學校青年會　當支部の者は新しき年と共に新しき天よりの力を得て活動致し居候間御安心下され度候、扨先學期の働きとして學期末に一學期中に集まりし金十三圓とキリングス、ドータースよりクリスマス特別寄附として金六圓五十錢とを博愛社に寄附致し候、猶新らしき學期に於てより多くの働を致さんと努力致し居り候▲新らしき學期に於ける第一歩として一月九日役員會を開き今迄當校校友會に屬し居りし給品部を本會の一の働に加ふる事と相定め申候、係の者は四名と致し毎月交替する事となし之れが選擧を行ひ左の如く相定り候。（高倉和子報）

一月　吉井、大方、生田、森　二月　梅本、島崎、田中、佐野、
三月　高倉、中井、志立、吉本、

各所の降誕祭

東京女子青年會寄宿舍　納戸町及安藤坂兩寄宿舍合併にて十二月廿三日祝會を開く今井牧師の壯嚴なる意味深きキリストの御降誕の眞意を述べられ基督一代記の幻燈をなす。

廿四日は東京女子青年會の催にて牛込田町　女子青年會本部に祝會を開く蓄音機にて『聖き夜』の曲其他數曲を聞きミス、ハリスの獨唱あり、山室大佐の『我々は今日クリスマスを迎ふるに當りお祭騷ぎをするのでなく我等の心の中にキリストの救の爲に此世に下り給ひし事を喜び生けるキリストを御迎へしなければならぬ云々』の熱心なる演説あり、會する者七十餘名。

看護婦會の祝會　二十六日　木澤病院に於て榊病院と合併して看護婦の爲に祝會を開きこれも亦盛會なりき。

其他青年會**附屬の日曜學校**はそれ〲クリスマス祝會を催し其他生徒達を賑したり。

三井慈善病院　神田和泉町なる同病院にては夜七時より學行せらる恰も停電の爲とて玄關より會場なる講堂に至る階段の欄干に蠟燭を點して嚴かなる光四方を照せり定刻に至り綿谷看護婦長の祈禱一同の讃美大西きぬ子氏の聖書朗讀看護婦有志の讃美歌ありて後植村牧師『基督降誕と慈善』なる題下に慈善はキリストの降誕と共に世に出でたるもの即ちキリストによりて新意義を附せられたるものなれば此院の如き慈善を旨として立てる病院に於て基督の降誕を祝賀するに至りしは理の當然と云ふべく而かも誠に歡喜に堪えざる所なり更に何れの職と雖もキリストの宗教を有する必要あるは勿論言を俟たざれど特に哀なる病者を看護する職務に於ては最もキリスト教の必要ある事を說かれぬ尙ハレルヤ、コーラス、其他宗教的

音樂の蓄音機幻燈等ありかくて惠の中に閉會し更らに一同懇談遊戯に時を過し散會したるは十時過なりき會せしもの數十名に達したり

横濱女子青年會　十二月二十四日午後六時より開會、東京より河井先生御臨席下され十數名の會員集ひたり會場には裝々を施し光りまばゆき電燈の下に一同席定まるや二宮幹事の聖書朗讀河井幹事の祈禱を以て始り種々各自の送り物を終り最後に二宮姉には此度職を辭さるゝにつき創立以來の御盡力と又此度の御婚儀に對し會員諸姉より僅かの餞を差上各自滿面喜溢れ居る内にも流石會員が母として慕ひ毎日食には必ず相見みえし姉とお別れする事とて言ふ可らざる感に打たれて散會せるは九時頃なりき。（横濱生）

雜報

●●●●●●●●●
基督教傳道義會奉献式　戸村義郎氏の擔任の同會は今回其會舘を東京牛込區市ヶ谷谷町九十三番地に新築し一月四日其奉献式を擧行し戸村氏の報告植村牧師の演説ありたり

抑も戸村氏は貧民傳道に志てより二十二年間にして東京に此事業を開始せられしより十年餘となれり御實兄森田八十郎氏は醫學專門なるを以て明治三十九年より志し貧民間に施療施藥を開始せられたり斯く兄弟共に靈肉健康を下層の人々に與ふを以て天職とせられ赤貧に甘んじ今日迄熱心に此事業を繼續せられしなり、明治四十年十月傳道協會の認可を受け以後戸村氏の働により受洗せし者百名以上、三十九年六月以來森田氏醫院にて取扱ひし患者の延人員七萬五千五百三十二名なりといふ。今回の地所、建築を合して其費用五千五百圓に當り千圓以上の負債となり居れりと。會の位置は舊監獄跡にて醫院を二階造とし集會所を平家にし總ての便宜備はり此新市街に適當なる建築なり。

●●●●●
日の本女學校　姫路なる同校は一月六日校舍落成祝賀式を擧行せり。同校は明治二十四年四月米國宣教師ミス、ヂョルヂ、五軒邸に於て數名の女生徒を集め假りに教授を開始せしに原づき、同年六月現在の地に新校舍を築造する事となり、明治二十六年二月十一日の佳辰をトして開校の式を擧げ日の本女學校と名けたるものにて、同地方有力の學校なり。

●●●●●●●●●
群馬縣廢娼二十年紀念會　群馬縣は全國に卒先して公娼全廢を斷行し今日も全國唯一の廢娼縣たる名譽を完ふする所なるが一月廿四日其斷行滿二十年に相當するにより前橋市に於て大紀念會を催し非常の盛會なりき。

●●●●●
理想的小學校　米國ブリンマー女子大學校にては師範科に附屬の小學校を設け十歳なる少女十五名を募集せり、此小學校は從來のものと組織、教授法等萬事を異にし、理想的教育を施さん爲の試みなりといふ、申込者多くして選拔に大困難を感じたる由な

り、其合格少女の一家族の如きは通學の便宜の爲に他州より住居をプリンマーに移したる程熱心なる由其細報は次號に掲載すべし。

●●●●●●●●●

ニユーヨーク女子青年會　米國のニユーヨーク市女子青年會は今回三百萬弗（六百萬圓）並に男子青年會の爲百萬弗を十日間に募集したる處其額に達せざりし爲十二時間延期したるに反つて十二萬八千圓餘豫算以上に集りたる由なり、其募集最中東京市助役田川大吉郎氏は恰も同市滯在中にて同會々長ミスダッヂと會食せられ席上此擧に感動され大いに之を賛し寄附されたりと同市新聞は報ず。

東北凶作救濟　北海道並に青森其他の凶作の慘狀は既に讀者も御存じと思ひます、東京の諸教會及學校等にてはクリスマスの献金或は送物を廢して金員、衣類等を送つた處も澤山にあります、私共も身分に應じて爲すべき義務があると思ひます、此嚴冬に於て人々の苦しみは益々增す事ですから種々の道を講じて救濟すべき責任があります。家庭を持つておいてなさる御婦人方には此際青森縣凶作救濟會青年行商團といふものがありまして是はメソヂスト派の主なる方々が直接に活動されて居ますが凶作地方より林檎を取よせ團員が市內に賣捌く事になつて居ります、一箱（大概百二三十個入）二圓三十錢より一圓五十錢迄て、質は誠によく値段も決して高くはありません今や二萬箱を載積して其賣捌に奮闘して居るそうで御座いますからどうぞ一個でも多くお買ひ下さい。此賣上高は悉皆罹災民に使用さるゝ事でありますから非常な助けになる事と思ひます。麴町區日本メソヂスト九段教會へ御申込になれば市內は何處でも配達するさうで御座います。又同縣三戸郡凶歉救濟會は八戸町各救濟共同事業として救助金品其他集收に盡力して居ります。記者は仁慈なる姉妹達の同情を祈るものであります。

二宮貞子姉　橫濱基督教女子青年會幹事たりし同姉は舊臘二十九日東京にて法學士藤田倶治郎氏と華燭の典を擧げ即夜直ちに御住所岐阜縣岐阜市梅ケ枝町に向け出發さる。

元良靜子姉　東京女子青年會員同姉は去年十一月高橋氏と結婚東京府下千駄ケ谷一二二に御住居。

森田靜榮姉　森田松榮姉令妹同姉は一月五日矢野恕氏と結婚福井市佐佳枝上町四十三番地に御住居。

讀者便り

○日本婦人の幹事人選中

桑港　安孫子よな子

其後は意外の御無音申上候皆々樣御健かにて御活動の御事と存候私事歸宅後早速御便り申上候心組にて居ながら餘り多き色々の用事に取紛れつひ〳〵今日まで失禮致し不本意に奉存候、當地青年會の事に就き過般來多大の御同情戴きし事歸米後當地の役員一同へも申傳へ一同感謝致し居候私共の青年會にては日本婦人中より幹事を一人選む事と相決し申候就ては候補者も二名程有之候て先日來委員を擧げ調査中にて候、其上に米國婦人一名位は日本人間の働の爲特志者もあるらしく候まゝこれはミス、マシユーなどの御盡力にて或は出來申すべく候、愛波せん子樣も數日前まで私宅に御滯在に候ひしが此度山中氏と去る三日に結婚式を擧げられ候式にはミス、マシユーも御列席被下喜ばしく存候、同姉は誠に幸福なる新家庭の人となられ一同喜び居候、これより當地の女子青年會の爲にも御盡し下さる事と存じ候。

○二週間すれば加藤さんに逢へます

米國　渡邊百合

この手紙の着く頃にはお正月でせうね、お目出度う御座います、これは本當に口だけの氣がします、未だ私にはお正月の氣はしませんもの。こんなに忙しいので自分で熟々馬鹿の氣がします。此の學期がすむだらばよくなりませう。此の學期から學校は一年に二學期しかありませんからこの儘二月迄續くのです　愈々二週間すれば加藤さんに逢へます。其が嬉しくて。でも此二週間が何だか何時來るやらと云ふ氣もします。休業の考は頭にありません。勉强で、先日町に行きましたら栗が八百屋にあるのを見つけ日本の栗位の大きさでしたから買つて來まして女中の處に持つて行き煮て貰ひました。日本のと同じ、當地でこんな大きいのは珍らしいのですもの。私は嬉しくて一皿一人で初めて食べました。來る人にも味はせて上げましたが殆んど皆生の方が好きだと云ふのですもの。十二月十六日にはヘレン、ケラーの……御存じでせう、あの盲人で啞の方、教育により話す事が出來る方です。これは學校の青年會の發起でするので切符を賣るので大騷ぎです。私も今日は賣りに行きました。學校の爲にする事が出來るのはたまの事ですから忙しくてもそんな事は思つても居られません。もう一つ吹出される事があります。それは昨日男子の方々の寄宿舍で日本の繪に就て五分程話しました。生徒は買ひ度いが繪に就て少しも知らぬといふ處から寄宿の舍監を通じて頼んで來ました。私は繪を賣る人の活辯の樣では嫌だと頑張りましたが、賣ると云ふ事でなくこれがよい折だから一言でも日本の繪といふ事に就て頼まれて話しました。私の父が呉れた掛物を二三本持ち又他に古い繪など說明に持つて行つて見せました生れて初めて男だけの場所で話をしました。私は少しも他に話などしません。私にはそんな事は出來ませんもの。

○大供のお正月をして居ります

北京　加藤さく子

私共は舊冬から新年にかけ、至極閑靜な日を送て居ります。外樣では新年は御屠蘇で御祝ですが、私共では御茶で御祝ひして居ります。

又新年宴會よ、骨牌會よと夜を更して入來しやる皆樣を羨ましいとも思はず、寧ろ御氣　毒に思ひながら夜はストブを圍で主人と共にトランプや、雙六をして大供の御正月をして居ります。私は嬉しく存じ何處にか隱れた祈があると思ひ感謝の念を强くせずに居られません。千賀子も元氣よくなりまして、支那人の乳母だもので、支那語を覺え、時々私共の知らない言葉など申して居ります。

今年から會友として戴き度う存じます今小爲替を封入して置きますから何卒宜敷願ひ申ます。御序の節高倉專子樣に宜しく、御住所を御通信いたゞけば倘嬉しく存じます。

○父の病も一日〳〵と快方

仙臺　竹尾惠子

昨年中は一方ならぬ御世話樣になりまして御禮の申上樣も御座いませんな程本年も宜しく御導きの程御願ひ申上ます。父の病氣については種々御心配下さいまして又御忙しい處御心にかけて御慰め下さいましてどんなに心强く感じましたで御座いませう。皆々樣の厚き御祈の御かげ樣で御旨にかなひ父の病氣も一日〳〵と快方に向つて參りました他事乍ら御安神下さいまし一時は醫師も見離し全く望を失ひ電報で呼んだ私共の着するまで間に合ふか如何かと案じた程で御座いましたのが看病する事が出來た計りでなく少しづゝでも快くなりましたのを見るといふのも全く神の御惠と感謝の外は御座いません、これよりは一生懸命人事をつくして御惠に添ふ樣に務めるつもりで御座います、大川喜代さんも昨年の暮から此方へいらして下さいまして看病して下さいましたので父は勿論母も弟も非常に喜んで居ます、保吉の居らぬ淋しい家を賑はして下さるので一同の喜ぶのを見る私も嬉しさに堪えません、私にこんなよい友を與へて下さつた事を兩親も心から感謝して居ます昨年は隨分二人にとつて悲しい事で御座いました、然しまた大きな教訓も得また豐かなる御惠も得た事を感謝して居ます、この新しい年も御許しの下に御旨に叶ふ働を少しでも致し度いと祈つて居ます、私の力にもしも出來る事が御座いましたら如何な事でも御申つけ下さいまし、なほ會の上にも神の御惠の殊に豐かにある樣に祈つて居ます。

○異鄕の空にて舊友に逢ひし嬉しさ

大連　三好待子

十月十三日午後大連に安着仕候過日旅順牧師島村樣が宅へ御泊り被下候折に佐藤樣御兩方の事呉れ〴〵も願上をき候、一ケ月計り前に市場にて突然舊鈴木伍子樣今の王置嘉門氏夫人に御目にかゝり以來二度御尋ねいたゞき當方よりも二度御訪ひ申上候異鄕の空にて舊友に逢ひし嬉しさは言外に御座候お可愛らしき坊樣いらせられ候同姉に青年界おすゝめ申上候處明年　月より御送附願度御希望に御座候なほ又北海道安孫子入重子姉にも御送附の程願上候。

○毎水曜日に横澤先生より

中山　英　吉井きん　松浦止米
上島やえの　大川きく　石川ふじゑ
小口みのる　淸水まつゑ

一筆申上ます昨年のクリスマスの際にはわざ〳〵私共の爲に聖書の贈物を下さいまして誠に有難う御座います。拙き筆もて御禮申上ます扨クリスマスの日は幸に雪も降らす午後二時には盛大に開かれました

殊に最後の面白い遊びは一同を大變に愉快にさせました。そして歸りに御會からの贈物を戴きました時には誠に有難く嬉しう御座いました私共は毎水曜日横澤先生より修養する上に於て大切なる聖書の御話を溫き御言葉にておさとし下さいます。私共は何時もそれを心にをきまして良い方に勉めつゝ居ります。これからも尙々勉めるつもりで御座います。

冬休みになりましてからは日曜の外はお話をきかれませんでしたが學校が始りましてからは又今迄の様に水曜の午後二時から北辰敎會で横澤先生より、尊いキリストのお話や修養のお話を承る事が出來ると思ふと嬉しくてなりません。私共は本當に幸で御座います。日々御親切な横澤先生やドレーパー先生から神様の御敎を伺ふ事が出來るので御座います。今後も授けられたる貴き聖書によりまして、汚れなき神様の御心に滿ちた生涯に入り、專心に先生方の御徳を慕ひ、世の光となり地の鹽となつて、神様の御國建設の爲に、力弱きものでありますが勉めたいと存じます。

○うどん賣りの聲を耳にしつゝ

札幌　高倉せん子

種々の事を考へ候に凡ての事聖旨ならざるはなく長き旅行も止むに止まれず又先日婦人會有之私は始めての事とて如何にしても出席せねばならぬ様覺え光子を脊負ひ道の惡き爲め高きものをはきし處つまづきてはまろびそれも一つの原因にて病床につき申候、主人は大低不在勝ちにて留守なくては中々訪問も致し兼ね候爲會員方も色々御心配被下候もよき人を得ず餘義なき用向の時は光子を殘して大急ぎにて出掛くる様な有様に御座候、光子は未だはふ事も出來ず獨にてはおとなしく居る事まれにてお相手さへ致し居れば上機嫌それにては用事も出來ず止むなく脊負ひつゝ大低の事は致し居候、一週餘も床に在りて靜に惠を味ひつゝ凡て神様の與へ給ふ物は最もよきものなればたとへ如何なる賜物にても感謝して受る様又基督が我等の中に常に活き給ふ事を實驗致したきものと願ひ候、北辰敎會もおかげ様にて段々盛に向ひ居り候私事も都合により轉會致さねばならぬ様相成唯名のみにても母敎會を離れ候事は殘り惜く存じ候へども見えざる一つの大なる敎會を思ひ凡て聖旨にまかせ奉るべく候、只今主人は不在靜なる夜にて遠く聞ゆるうどん賣の賣聲を耳にしつゝ光子を脊負ひ唯心に浮ぶまゝを申上候月淸き夜に御座候。

○當分通常會員に相成候

臺灣　井街てる

先頃かり女子青年界御郵送下され難有拜見致候、澤田みやこ様の會費壹圓及び私の分壹圓都合貳圓の小爲替に致し同封致しをき候間御受納被下度、當分通常會員に相成度候。他にもと安藤坂の青年會寄宿舎においで相成候東郷千賀子様も青年界一部差上置候いづれ御目にかゝり候はゞ御尋ね申上べく存候。

○私は相變らずの呑氣もの

仙臺　大川喜代子

二十五日のクリスマスには御蔭様で大變によく出來ました生徒も敎師も本當に嬉しく感謝して別れました準備やら買物やらでそれに終業式の當日とて學校の方も大分混雑しゞ居ましたので大變に忙しくて御祝を申上る暇も御座いませんでした、二十一日には幸に生徒の受洗式も終りまして御喜び下さいませ、私は仙臺の竹尾の家へ父君の看護の手傳に參りました久しく母の愛に飢えた私は昨晩は本當にお母さん

お種々とお惠さんや私などに氣をつけて下さるのを見ます毎に喜しいのか悲しいのかわけがわからぬ涙計り出まして本當に泣かずに居られませんでした、でも竹尾の家も保吉さんが居られないので淋しうございます、私には母此家では弟さん話の出る度に氣の弱い私は涙計り出ます、私事もお蔭樣にて事無く先づ當地にて新春を迎へました淋しき折も暖かき皆樣の同情の中に樂しく正月を迎へました御惠によりまして病人も大變に心持よくもう獨りで寢起位出來る樣になりました本當に嬉しく感謝致して居ますまあ全く全快と申す迄には日數もなか〱掛りませうがでもまあ心配なと申す處を越えました事を喜んで居ります、私は相變らずの呑氣者とて全く我儘な事計りでも皆樣が家の者と同樣にやさしくして下さいますので何の心置もなく樂しく日を送つて居ります、自分の家におりましても淋しい〱お正月を迎へ送る計りまあこうしてお惠さんと一所にお正月を迎へられた丈でも又病人の看護も少しなりともお手傳が出來た丈嬉しうございます、昨年は本當に變化の多かつた年今年はどうか又新しき元氣と信仰とを以て又進みたいものでございます、明日は日曜日で仙臺の敎會に參りますつもりでございます、本年の修養會には是非出席したいと竹尾とも相談致して種々と計畫を致して居ます、考へれば早いもので水戸に參りましてからもう二年たちました然し學校に對して生徒に對して爲す所の少なかりしを悲しみます敎師として只先生とよばれて妙な感じが起らぬ丈になつた丈學力からいつても人格の點に於ても語に缺點の多い私本當によく〱思ふ度毎に何にか淸い務を汚してゐる樣でなさけなくなります、けれども神は種々な方面よりして御導き下されます事を考へまして又人知れぬ勇氣を與へられましてどうなり毎日を過して居ます、御座敷ではお父さんが寢ておられますお母さんは御裁縫私とお惠さんとは隣の部屋で二人で今迄年賀狀を書いてゐました今から手紙を出しに參らうかと存じて居ます霜どけで一度外に出る度に足袋を一足づゝ汚してしまひます私は今は大變に樂しく暮しております。

○山里住に有益なる雜誌を友とする

群馬縣　田中きわ

年改まれると共に益々主の御榮の普くあらはれて參ります事は誠に喜ばしき事と存じます、私事も皆々樣の御かげ樣に依りましてかく立隔りたる山里住に有益なる雜誌を友とすることが出來まして感謝致してをります此の手紙と共に本年分雜誌代切手にてお送り致します。

○青年會の御用の爲に御使下さい

東京　佐藤さい

每度青年會雜誌にて先生方の御高說拜見致し大いに勵まされ信仰薄き身の益々奮勵致しをり候此の新らしき年と共に愈々神にはぐくまれ自分の基督者たる價値あるものとなり度きものと覺悟致し居候又夏期に開かるゝ修養會に出席致し度しと今より希望致し居候、あまり僅にては候へども封入の金子何卒靑年會の御用の爲に御使用下され候はゞ幸に御座候。

○田舍の隅にも此雜誌が姿を表す

岡山縣　多賀艷子

新年の賀詞申上ます、神は無意味に父に此度の病を與へ給ひ又癒し給はむ事でせうに、若し今から全快の日を神は知りて暮す事が出來ましたら父の幸福は如何計りかと思ひますが實に神を知らぬ生活の如何計り望なき淺き無意味な事でせうと神を知らぬ人々の内に入つて尙一層感じ知られます、神に對して自分の不甲斐なき此身何と申譯致してよいか分りません與へ給ふ日毎に空しく頂く食物も口に入れる價値な

き様の氣もちが致します、日毎夜毎に神に捧ぐる祈が神に近き者となりたいとつくぐ〜思ひます、冷い冷い朝でした前の稻株の殘つた田も冴え渕の水にも氷が張りつめてゐます青い葉の吹きさられた後ろの木立の庭もさびしく何もかもガランとした田舍の冬景色蒼空は澄み渡つて餘計に寒空の樣ですが空氣は汚れなく思はずすうーと大きな口明けて吸ひ込まれば惜しい樣な氣が致します、妹達を連れ海に行きましたら引潮の後が小きざみに殘されたまゝ雪の樣に白く凍つてゐます、沖に霞む島々流石に春に近きを思はせます宇宙の一角も殘し給はぬ神の御手の偉大に巧妙なるに打たれました。昨夜隣の叔父叔母の所に又來夏迄に日曜學校の小供に敎ふる讃美歌を稽古に參りましたら女子青年界が來てゐました。一月號、此の田舍の隅に此の雜誌か姿を表はす樣になつたとは、丁度表紙にあるランプが光つて來る樣な氣が致しました。去月の三十日の夜阿部牧師來村一信者の家にてクリスマス祝賀會がありましだ。集りましたもの共五六十人計りで御座いました三人の小供は其夕方が樂しみで樂しみで安郎(十)の方は油斷大敵の話、達子(六)は『小文ちやん小母ちやんクリスマスでおめでたう御座います』朝から晩迄口癖の樣に言つてゐました此の小さな小供達に斯樣に覺えさせし叔父叔母の骨折も大したものでしたでせう。クリスマスの木も心から持ち出されました。此の村に歸つて居つて自分の小供達の祝賀會に出られなかつたのは實に殘念の至りで御座います。父も全快に赴きますし務ある身ですから六日には歸京の途に着きませうと思ひます。

○今の境遇を眞心より幸福と存じて居ます

大阪　板寺友子

先日河井先生御來阪の節には時間のなき爲めろく〜落付きて御話申上ぐる事も出來ず大變に殘り惜しく存じました。私も一年近く女子青年會の寄宿舍に御世話に預りました者、どうかして皆樣の御厚志に報ひ度と存じつゝ未だに少しの御報も致さず常に心苦しく存じます。主人事も去る十一月末皆樣のお助けに依りまして尊き父の僕となる爲鈴木牧師より受洗致しました。同じ家に住む私の身として同じ信仰の下に日々進んで參られる今の境遇を私は眞心より幸福と存じて居ります。猶益々今後とも皆樣の御親切を無にする事の無き樣にと日々祈つております。當地天下茶屋の敎會の日曜禮拜に集る人數は五十人位で御座いますが恰も一家族の如く樂しい御集りを致しております。

○會友申込（本部報告）

松岡琴子　井街てる子　澤田みや子　白木浦子　中島妙子
柳井なを　桑原まさ　瀧本まさ　井上玉枝　荒井ひで
瀬尾いく　森田夫人　佐田文代　河原園子　作間重子
加藤さく　板寺友子　神社花の江　本間夙子

○雜誌「女子青年界」代金領收（一月）

金七拾錢　木岡峰子
金七拾錢　古谷さえ
金七拾錢　田中きわ
金七拾錢　鳥居かな
金七拾錢　和久山(内ケ崎氏拂込)
金參拾五錢　高橋隆篤
金七拾錢　石坂しさ
金七拾錢　河野のぶ
金七拾錢　根本政衛
金五拾錢　ピンセント
金七拾錢　葛山きよ
金七拾錢　林あき
金七拾錢　加藤花子
金七拾錢　小泉ふみ
金七拾錢　吉田夫人
金壹圓四拾錢　ミス、スミス

金七拾錢　大山かね
金七拾錢　成島しづ
金七拾錢　和田たき
金七拾錢　藤田しづ
金七拾錢　仙石靜江
金壹圓拾五錢　阿部つや
金七拾錢　納戸町寄宿舍
金九拾壹錢　小川光子
金七拾錢　和田花子

○會友會費領收（一月）

金壹圓五拾錢　松岡琴
金貳圓　加藤さく
金壹圓宛　井街てる、佐田文代、澤田みや、白木浦、作間重子、柳井なを、桑原まさ、板寺とも、瀧本まさ、神社花の江、本間夙子、井上玉枝、荒井ひで、中島妙子、瀬尾いく

御斷り

編輯生

今號誌上には記載事項甚多のため前號誌上に豫告したるものも大半掲載する能はざる事と相成り、讀者各位に對して申譯なく候。しかし、豫定以外に得たるものも少なからず掲載を前後いたしたるまでに有之、新年來の企畫には勿論今後の誌面の許す限り、豫定に從て誠實なる所論所說、趣味豐富なる記事を以てするやう仕度心懸け居候へば、惡しからず御寬宥を祈上候

部數	定價（郵共）	滯外
一部	金七錢	金十一錢
十二部	金七拾錢	金壹圓廿四錢

廣告		
一頁	金六圓	
半頁	金三圓五拾錢	
半段	金貳圓	
一行	金貳拾錢	

大正二年一月廿八日印刷納本
大正三年二月一日發行

發行所　京京市牛込區田町三丁目十二番地　日本基督教女子青年會
編輯兼發行人　東京市牛込區田町三丁目十二番地　河井道子
印刷人　東京市芝區櫻川和泉町七番地　鈴木吉次郎
印刷所　東京市芝區櫻田和泉町七番地　三成舍

National Committee

Headquarters. 12Tamachi Sanchome, Ushigome,Toky

Mrs. Hana Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss Tami Mitani, Secretary
Dr. Tomo Inouye, Treasurer
Miss Michi Kawai,
Active Member World's Committee
Miss Matsu Okonogi,
Editor "Joshi Seinen Kai"

Resident Members	Non-Resident Member
Miss Ume Tsuda	Madame Asa Hirooka, Osaka
Miss A. B. West	Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss Uta Suzuki	Miss M. F. Denton, Kyoto
Miss Kita Hasegawa	Miss Michi Matsuda, Kyoto
Miss Sarah Ellis	Miss Yoshi Kajiro, Okayama
Miss Chiyo Yamada	Miss K. Tristram, Osaka
Mrs. E. W. Clement	Miss Susan Searle, Kobe

Secretaries

Miss Michi Kawai, Nationa
Miss A. C. Macdonald, National,
Miss Ruth Ragan, National Office
Miss Margaret Matthew, on Furlough
Miss G. R. Watney, Acting General, Tokyo
Miss Mary Page, Acting Associate, Tokyo
Miss Tei Ninomiya. General, Yokohama

女子青年界第拾壹卷第二號
大正三年一月廿八日印刷納本大正三年二月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可